（１）CS（視聴者満足）活動

2005年度から「CS（視聴者満足）活動」に取り組んでいる。「視聴者の声」をきちんと受け止め，それを基に，放送番組や業務の改革・改善を進め，視聴者サービスのより一層の向上を図っている。

「視聴者の声」を“経営資源”として，意向を的確に把握し，適切かつ迅速に業務に反映することに取り組んでいる。主な取り組みは，年１回・視聴者部が発行する「NHK視聴者ふれあい報告書2015」などで視聴者に向けて報告した。

（２）「ターゲット80」活動

17年度末に過去最高の「支払率80％」達成を目指す公平負担徹底の取り組みとして，「ターゲット80」活動を開始した。これは，全局体制で営業活動を支援し，受信料制度の理解促進を図るもので，「大都市圏の営業支援」「地域局の営業支援」「公共放送・受信料制度の理解促進」を３本柱にしている。東京を中心に首都圏を掘り下げる番組『TOKYOディープ！』，『にっぽんプレミアム　二都物語』，受信料制度の意義をわかりやすくPRするスポット『受信寮の人々』の放送や，初の東京発地域ドラマの展開，地域イベントへの「番組体感ランド」によるブース出展など，地域支援番組253本，営業連動イベント134本の合計387本を実施し，支払率向上に貢献した。

（３）事業活動

公共放送NHKだからこそできる多彩な公開番組やイベントを全国各地で1,811本実施し，879万人の視聴者との結び付きの強化を図った。イベント参加者へのアンケートでは，イベント満足度は全国平均で84.5％，NHKの事業活動への理解促進度は71.1％と，いずれも高位の数値を得た。また，アンケートの結果を新たなイベントの企画に生かすPDCAサイクルを推進した。

地域の要請に応じて全国各地で多彩な全国放送公開番組を実施したほか，『大河ドラマ』や『NHKスペシャル』などの番組と連動した展覧会，海外の有名オーケストラを招へいした公演など，国内外の優れた芸術や文化を紹介する事業に努め，“ホンモノの魅力”に触れる機会を積極的に創出した。

「福祉」「防災」「食料」などの社会的な課題に応えるキャンペーンや，未来を担う若い世代を対象としたイベント，８Kスーパーハイビジョンのプロモーションイベント，東日本大震災の被災者に向けた取り組みを積極的に推進した。

（４）積極的な情報公開の推進と個人情報の適切な取り扱い

視聴者への説明責任を果たすために，積極的な情報公開に努めた。番組制作費については，テレビ４波を10ジャンルに分け，決算では各ジャンル別の番組制作費の総額（トータルコスト）を公表し，予算ではジャンル別の番組１本当たりの制作単価の目安を公表した。また，放送事業全体についての視聴者からの疑問に答えるため，「よくある質問集」をホームページ上に掲げて情報提供を行うとともに，随時内容の充実を図っている。そのほか，事業や財務等に関する情報をホームページ上に掲載しているほか，60の文書を各放送局の窓口等に備え置いている。（表１）

また，個人情報保護法の趣旨を踏まえ，NHKとして，保有する視聴者の個人情報の適切な取り扱いに努めた。

（５）広報活動

NHKに対する理解と信頼を高め，放送番組の視聴促進を図るための広報活動を行った。

「NHK経営計画2015-2017年度」，８Kスーパーハイビジョン，テレビ放送のインターネット同時配信の検証実験，FIFA女子ワールドカップ2015カナダ大会，戦後70年関連番組，東日本大震災から５年関連番組などについて重点的に広報するとともに，『大河ドラマ』『連続テレビ小説』『NHK紅白歌合戦』などの番組PRを中心に多彩な広報を展開した。

（６）営業活動

15年度は，３か年経営計画の初年度として営業改革を着実に進めるなど，放送受信契約の増加と受信料の確実な収納に全力で取り組んだ。

より効果的･効率的な営業活動を推進するため，契約・収納体制については，引き続き法人への委託を積極的に進めた。併せて，各種法人・団体との連携に取り組み，日本郵便株式会社の「住所変更案内サービス」を活用した「住所変更案内DM」の運用を強化した。

なお，民事手続きによる支払督促の申し立てについては，全国で1,147件実施し，これまでの累計で8,033件の申し立てを行った。その後も支払いに応じなかった281件については強制執行の申し立てを行った。未契約者に対する民事訴訟について，32件提起し累計で178件となった。

契約総数は，年度内に58万件（有料無料計）増加し，15年度末の契約総数（有料無料計）は4,258万件となった。

衛星契約については，設置確認メッセージの活用や契約案内メッセージの全国展開，ケーブルテレビ事業者と連携した活動の展開等により，年度内に82万件（有料無料計）増加し，15年度末の衛星契約数（有料無料計）は，1,993万件となった。

口座振替等については，年度内に65万件増加し，15年度末の利用件数は3,868万件となり，利用率は，97.2％となった。

視聴者対応

１．視聴者との窓口

（１）概要

15年度，全国のNHKに寄せられた視聴者からの意見や問い合わせは，合わせて392万3,000件だ

表１　公表の取り組み

公表している情報	公表方法	
	インターネットホームページ	文書の備え置き
経営委員会議事録	○	○
理事会議事録	○	○
NHK経営計画2015－2017年度	○	○
平成24～26年度NHK経営計画	○	○
中央放送番組審議会議事録	○	○
地方放送番組審議会議事録	○	○
国際放送番組審議会議事録	○	○
国内番組基準	○	○
国際番組基準	○	○
業務報告書，監査委員会の意見書	○	○
財務諸表，監査委員会の意見書，監査報告書	○	○
決算の要約，概要	○	
連結財務諸表，監査報告書	○	○
連結決算概要	○	
日本放送協会定款	○	○
収支予算，事業計画及び資金計画	○	○
収支予算，事業計画及び資金計画に関する資料	○	○
経理規程	○	○
役職員の服務準則	○	○
役職員の報酬・給与等の支給基準	○	○
NHK放送ガイドライン2015	○	○
国内放送番組編集の基本計画	○	○
国内放送番組編成計画	○	○
各地方向け地域放送番組編集計画	○	○
国際放送番組編集の基本計画	○	○
国際放送番組編成計画	○	○
インターネットサービス実施計画	○	○
NHKインターネットガイドライン2015	○	○
NHKの情報公開のあり方に関する提言	○	○
NHK情報公開基準	○	○
NHK情報公開規程	○	○
NHK個人情報保護方針	○	○
NHK個人情報保護規程	○	○
報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程	○	○
NHK情報公開・個人情報保護審議委員会規程	○	○
NHK情報公開・個人情報保護対応マニュアル	○	○

公表している情報	公表方法	
	インターネットホームページ	文書の備え置き
情報公開の実施状況・個人情報開示等の求めへの対応状況	○	
放送受信規約	○	○
放送受信料免除基準	○	○
業務委託基準	○	○
業務委託契約要領	○	○
番組制作の委託取引に関する自主基準	○	○
関連団体運営基準	○	○
関連団体の業務運営状況調査の結果	○	○
関連団体事業活動審査委員会の活動結果	○	○
NHKと関連団体との取引	○	○
関連団体事業活動審査委員会規程	○	○
子会社・関連会社の役員一覧	○	○
環境報告書	○	○
NHKことしの仕事	○日本語・英語	○
デジタル時代のNHK懇談会報告書	○	○
NHK“約束”評価報告書	○	○
視聴者視点によるNHK評価報告書	○	○
NHK第２次コンプライアンス委員会最終答申	○	○
NHK視聴者ふれあい報告書	○	○
視聴者対応報告	○	
週刊みなさまの声	○	
「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」	○	○
日本放送協会報		○
放送番組表	○	
放送制度等に関するNHK意見	○	
世論調査結果，調査研究成果	○概要	
会長・放送総局長会見要旨・資料	○	
報道発表資料	○	
随意契約の適正化	○	○
NHK年鑑	○	○
放送受信契約数統計要覧	○	○
月刊「放送研究と調査」	○	○
放送技術研究所「研究年報」	○	○
「NHK技研R&D」	○	○

った。14年度に比べておよそ12万4,000件減少した。このうち放送への反響は，全国で129万1,000件だった。

視聴者からの問い合わせに迅速・丁寧に答えるとともに，意見・要望を重要な経営資源として受け止め，番組制作や事業活動に反映させることに努めた。

（２）ふれあいセンター（放送）

ふれあいセンター（放送）では，寄せられた視聴者の意見・要望をデータ化し，速やかにフィードバックすることで，番組編成や制作現場における視聴者意向の反映につなげている。15年度にふれあいセンターで受け付けた視聴者からの意見・要望は，電話が78万件，メールが14万2,000件などで，合計95万8,000件であった。

15年度は，経営計画の方針である国際発信強化とインターネットサービスの拡充を踏まえて，英語での問い合わせやデジタルサービスに関する問い合わせに備えた専門の対応要員を配置し，体制の強化を図った。一方，放送文化研究所や放送技術研究所の代表電話の交換業務を新たに担うとともに，ふれあいセンター（営業）の平日夜間の対応時間短縮に伴う夜間営業案件の増加にも対応するなど，NHKの窓口としての役割機能をいっそ

う高めた。

また，コミュニケーターを対象に『所さん！大変ですよ』『ブラタモリ』などの新番組，「マイ語学・発音練習くん／声調確認くん」などのデジタルサービス，さらに例年の『NHK紅白歌合戦』，「平成28年度番組改定」など，多くのテーマで勉強会を実施し，対応品質とスキルの向上を図った。

（３）NHKハートプラザ

本部・全国各放送局・一部支局の「NHKハートプラザ」では，訪れる視聴者からの意見や問い合わせにスタッフが対面対応している。また，放送局のハートプラザでは，経営計画や予算・決算書などの文書を取りそろえ，NHKの情報公開の窓口としても機能している。

本部のNHKハートプラザ（放送センター４階・正面玄関横）では，来局者や投書などへの対応，情報公開の受付，番組公開ライブラリー（アーカイブス端末）の利用案内・管理，放送センターの見学・案内などを担当している。特に，中学・高校生などの職場訪問学習を積極的に受け入れており，若い世代の視聴者にNHKを理解してもらう上で貴重な場となっている。15年度は，本部ハートプラザの窓口に１万4,000人が訪れ，手紙（投書）は１万2,000通が寄せられた。

２．視聴者意向の集約と活用

（１）意向の件数と内容

電話，メール，手紙，FAX，来局で，全国の放送局に寄せられた2015年度の意向件数は392万3,000件だった。

15年度視聴者意向件数（単位　千件）
（※関連団体への意向件数は含まず）
※内容別内訳

内容／年度	経営関係	放送関係	受信料関係	技術・受信相談	その他	合計
2015	6	1,291	2,144	76	406	3,923

※受付方法別内訳

区分	電話	投書	来局	ﾌｧｯｸｽ	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	その他	合計
件数	3,327	103	55	22	392	24	3,923
比率(%)	84.8	2.6	1.4	0.6	10.0	0.6	100

番組別では，『あさイチ』が３万8,000件で最も多く，次いで『NHKニュース　おはよう日本』に３万5,600件，『国会中継』に２万8,600件，『NHKスペシャル』に２万6,000件，『ためしてガッテン』に２万5,900件などの意見・問い合わせが寄せられた。

（２）意向の集約と周知

視聴者部では，ふれあいセンター（放送）や全国の各放送局に寄せられた意見・問い合わせなどを集約し，放送現場や番組編成の参考となるよう，その結果をさまざまなかたちで報告している。

１週間ごとに集約した「週刊　視聴者の声」では，反響が多かった番組や注目すべき番組への意見内容，再放送希望の状況などを紹介している。１か月ごとに集約した「月刊　視聴者の声」は，放送番組審議会の資料としても利用されている。「週刊　視聴者の声」「月刊　視聴者の声」は視聴者対応システムにも掲載している。このほか，特別な番組や大きな反響が想定される案件，経営に関わる案件については，視聴者意向の特別集約を行い，関係部局に周知している。

また，08年度４月の放送法改正で，視聴者からの苦情その他の意見に適切かつ迅速に対応し，その対応結果を経営委員会に報告することが義務付けられたことに伴い，ふれあいセンターや本部各部局，全国の放送局に寄せられた意見・苦情などを取りまとめて，３か月に１度「視聴者対応報告」を作成し，理事会で審議決定の上，経営委員会に報告している。「週刊 みなさまの声」や「視聴者対応月次報告」はNHKオンラインに掲載し，視聴者にも公開している。

さらに，視聴者から寄せられた意見・要望，業務の改善事例などをまとめた年度報告の「NHK視聴者ふれあい報告書2015」を６月に発行し，NHKオンラインで公開している。

イベント事業

Ⅰ．全国放送公開番組

（１）地域要請に応じて実施した公開番組

総合テレビ：75本，Eテレ：22本，BSプレミアム：43本，ラジオ第１：135本，FM：10本の公開番組を，地方自治体などの協力を得ながら実施した。東日本大震災から５年，東北地方の被災３県では，『NHKのど自慢』（２月14日宮城県石巻市，３月13日福島県広野町）を連続して実施するなど，元気と笑顔を届ける公開番組を被災地に重点的に配置した。

（２）NHKホール・ふれあいホール・NHK大阪ホールで実施した公開番組

【定時番組（NHKホール）】

『NHK歌謡コンサート』（29本）７万9,943人
『MUSIC JAPAN』（17本）４万7,499人
『ザ少年倶楽部』（12本）３万4,815人
【定時番組（ふれあいホール）】
『セッション2015』（35本）8,418人
『みんなDEどーもくん！』（23本）4,915人
『ライブビート』（11本）2,195人
【主な定時番組（NHK大阪ホール）】
『NHK歌謡コンサート』（９本）9,594人
【主な特集番組】
『春だぜ！しゃべくり一直線』
４月21日　ふれあいホール　181人
『演歌の綺羅星（きらぼし）』（２本収録）
４月27日　ふれあいホール　505人
『着信御礼！ケータイ大喜利「10周年記念スペシャル」』
６月26日　NHKホール　2,401人
『NHK東西浪曲大会』
７月24日　ニッショーホール　572人
『第45回NHK講談大会』
７月25日　ニッショーホール　561人
『ザ少年倶楽部 in 大阪』
８月６日　NHK大阪ホール　1,128人
『第47回　思い出のメロディー』
８月８日　NHKホール　2,670人
『語りの劇場　グッとライフ』
８月10日　ふれあいホール　227人
『ライブハウス・R－1_プラス』
８月12日　ふれあいホール　223人
『秋こそ！しゃべくり一直線』
９月15日　ふれあいホール　209人
『NHK音楽祭2015　オープニング・コンサート』
９月30日　NHKホール　2,750人
『リサイタル・ノヴァ』
10月15日　ふれあいホール　211人
「アニ・オケ！クラシック～“ネ申曲”降臨～」
10月16日　NHKホール　2,058人
『きらクラ！』
10月23日　ふれあいホール　267人
『アニソンのど自慢G』
11月15日　ふれあいホール　138人
『おとうさんといっしょ』
11月27日　ふれあいホール　223人
『笑う洋楽展　年末スペシャル』
12月11日　ふれあいホール　237人
『わが心の大阪メロディー』
12月15日　NHK大阪ホール　968人
『新春民謡列島2016』
12月23日　ふれあいホール　266人
『アニソンアカデミー スペシャル』
12月26日　ふれあいホール　259人
『第66回NHK紅白歌合戦』
12月31日　NHKホール　2,747人
『新春おめでた！しゃべくり一直線』
１月２日　ふれあいホール　279人
『NHKのど自慢チャンピオン大会2016』
１月11日　NHKホール　2,731人
『NHK東西浪曲大会』
１月30日　NHK大阪ホール　1,130人
『第45回日本農業賞 表彰式・日本農業賞記念コンサート』
３月12日　NHKホール　2,549人
『アニソンのど自慢G～天下一アニソン武闘会～』
３月16日　NHKホール　1,257人
『N響CLASSICS×POPS with SPECIAL ARTISTS』
３月22日　NHKホール　3,047人

（３）外部施設などで実施したNHK単独主催の公開番組

【主な公開番組】
『歌謡チャリティーコンサート』（２本）3,528人
『NHK歌謡コンサート』（２本）3,247人
このほか『キャンパス寄席』『きらり！えん旅』や『ここはふるさと旅するラジオ』などを実施した。

Ⅱ．公共放送ならではのイベント・キャンペーン

１．NHKハートプロジェクト

すべての人がともに生きる社会を目指し，NHKの福祉番組やイベントを取りまとめた福祉キャンペーン「NHKハートプロジェクト」を05年度から展開し，公共放送だからこそ可能な福祉への取り組みを総合的にアピールしている。

（１）NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

12月１日から25日まで中央共同募金会（歳末たすけあい），日本赤十字社（海外たすけあい），NHK厚生文化事業団とともに実施した。受付は，全国のNHK各放送局，郵便局，取り扱い標示のある金融機関，JA，JF（漁協），共同募金会，日本赤十字社など。

歳末たすけあいは，４万7,799件，５億8,060万6,454円で，各都道府県共同募金会を通じて国内の福祉施設や支援を必要とする人々に配分され

る。海外たすけあいは，８万2,367件，７億1,526万7,248円で，日本赤十字社を通じて世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々のために使われる。また，たすけあいのPRイベントとして，12月５日に日本科学未来館で開催された「NHKサイエンススタジアム2015」の中で，『あなたのやさしさを2015』を実施した。

（２）災害たすけあい

ネパールで発生した地震災害に応じて，日本赤十字社などと連携し，災害たすけあい１件を実施した。「2015年ネパール地震救援金」（４月30日～７月31日，ただし日本赤十字社は４月27日から先行して受け付け）。

（３）第20回NHKハート展

障害のある人がつづった詩に託された思いを，各界の著名人やアーティストがハートをモチーフにしたアート作品で表現した「詩とアートの展覧会」で，94年から開催している。第20回は3,678編の詩の応募があった。展覧会は全国17会場で実施した。入場者６万3,973人。

（４）NHKハートフォーラム

福祉番組の公開収録やさまざまなテーマのフォーラムを全国24会場で実施した。入場者8,822人。／主催：開催地のNHK放送局，NHK厚生文化事業団，開催地の自治体ほか。

（５）NHKハートスポーツフェスタ

障害のある人もない人もスポーツを通して交流を深めることで，“心のバリアフリー”を図るイベントとして，01年から実施している。

熊本県，鹿児島県，福島県，北海道など，全国６会場で，陸上，障がい者ゴルフ，ブラインドサッカーなどのスポーツイベントを実施した。参加者2,240人。／主催：NHK各放送局，NHK厚生文化事業団／共催：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

また，20年の東京パラリンピックの開催を受けて，より障害者スポーツへの理解と関心を高めるイベント「パラリンピアンがやってきた！子どもたちとの交流教室」を関東７会場で新たに実施した。種目は水泳，車いすバスケ，ボッチャなど。参加者1,025人。／主催：NHK各放送局，NHK厚生文化事業団，東京都障害者スポーツ協会

（６）NHK介護百人一首

毎年，介護に関わる人々が日々の生活の中で詠んだ短歌を全国から公募し，100首を選定している。「NHK介護百人一首2016」には，１万3,365首の短歌が幅広い世代から寄せられた。

・Eテレの『ハートネットTV』で「介護百人一首」の公開収録をNHKふれあいホールで実施した。入場者227人。
・100首の短歌を収めた作品集を発行。
・「介護百人一首2015パネル展」をNHK各放送局ロビーなど，12会場で開催した。来場者１万3,102人。

（７）第50回NHK障害福祉賞

障害のある人や障害のある人を支援する人たちの体験手記を募集し，優秀作品を表彰した。応募数は408編。

（８）NHK銀の雫文芸賞2015

「高齢社会をどう生きるか」をテーマにした文芸作品を募集し，優秀作品を表彰した。応募数は853編。

（９）第49回NHK福祉大相撲

人気力士と歌手の歌くらべや横綱綱締め実演，幕内取組などを楽しんでもらうイベントを，16年２月11日に国技館で実施した。入場者4,200人。純益で福祉車両「福祉相撲号」を購入し，全国の福祉施設・団体に計６台を贈呈した。15年度までの贈呈台数は延べ297台。

２．公共放送キャンペーン

（１）NHK地域のキャンペーン

公共放送ならではの取り組みとして，これまで行ってきた「防災」「環境」関連イベントのほか，13年度からスタートした各放送局単位で地域特有の社会的な課題やニーズに応える「地域の課題」関連イベントを実施し，地域における公共放送の存在感を強くアピールした。

〔地域の課題　関連イベント〕

「観光推進」「地域活性化」「戦後70年」「健康増進」など，各放送局が独自のテーマを設定し，地域放送を軸にして自治体など公共機関とも連携したイベントを全国13会場で開催した。参加者９万6,703人。

〔環境　関連イベント〕

03年度からスタートし，人類共通の課題である環境をテーマにしたイベントを全国で展開した。

①NHK環境キャンペーン 体験！エコゾーン

５月３～５日にNHK放送センターで開催された「渋谷DEどーも2015」内で実施した。環境に関連した番組のワークショップ，親子で楽しめる人力発電遊具などのほか，環境問題に取り組む大学生と連携した体験型のブースを展開し，楽しみながら環境について考えるきっかけを提供した（渋谷DEどーも来場者７万1,331人）。

②地域イベント

全国10会場で開催。参加者１万4,061人。

〔防災　関連イベント〕

“いざという時のNHK”をアピールするとともに，視聴者の防災意識を高めるため，07年度からスタートしたイベントを全国で展開した。

①防災パーク2015

９月１日の「防災の日」に合わせて，８月29～30日にNHK放送センターで開催。Eテレ『学ぼうBOSAIスペシャルin防災パーク』公開生放送や，消防・警察の特殊車両の展示や乗車体験，防災につながる各種体験（ワークショップ）などを実施した。来場者１万2,957人。

②地域イベント

全国12会場で開催。参加者１万5,163人。

（２）ふるさとの食　にっぽんの食

01年度より「日本の食文化の伝承」「地産地消」「食育」をテーマに全国で展開しているキャンペーン。JAやJFなどと実行委員会を組織し，全国的に推進している。

①全国フェスティバル

16年３月12～13日にNHK放送センターと代々木公園で開催。来場者４万5,716人。

②地域イベント

全国24会場で開催。参加者20万4,961人。

③食料フォーラム

東京都（６月），愛知県（２月）の２会場で開催。入場者767人。

（３）放送90年特別巡回展示

「放送タイムトラベル～あの日あのとき，そして未来へ～」

放送文化研究所や放送博物館，知財センターなどと連携し，過去の機材や資料，映像を展示するとともに，放送技術研究所や技術局の協力で最新の放送技術を紹介する全国巡回特別展示を，全国７会場で実施した。入場者数２万2,166人。

Ⅲ．こども・青少年イベント

（１）おかあさんといっしょファミリーコンサート

①東京公演

春：５月２～５日，秋：10月31日～11月３日，NHKホールで実施した。チャリティーの収益金は社会福祉の向上に役立てた。

入場者：（春・８公演）２万5,247人
　　（秋・８公演）２万5,152人

②地方公演

全国11会場（28公演）で実施した。チャリティーの収益金は，さまざまな社会福祉活動に役立てた。入場者３万8,574人。

（２）いないいないばあっ！あつまれ！ワンワンわんだーらんど

『いないいないばあっ！』の人気キャラクター・ワンワンほか出演者たちが，歌や踊りを繰り広げる番組連動型のステージショー。全国10会場（24公演）で実施した。チャリティーの収益金は，社会福祉向上に役立てた。入場者３万3,470人。

（３）おかあさんといっしょ宅配便「ポコポッテイト小劇場」

『おかあさんといっしょ』のキャラクター「ポコポッテイト」が，全国を巡回するミニステージショーを58会場（116公演）で実施した。入場者５万2,639人。

（４）『おかあさんといっしょ　あつまれ！土曜日』スタジオ収録

『おかあさんといっしょ　あつまれ！土曜日』のうち，子どもが参加するコーナーの収録を実施した。６会場で収録し，計18本を制作。参加者数946人（３歳児とその保護者）。

（５）NHK放送体験クラブ

小学５・６年生を対象に，全国各放送局で番組作りの体験を通して，楽しみながら放送について学習するイベントとして実施した。全国48放送局と２支局で実施。参加した児童の様子や制作した作品は地域放送で紹介し，視聴者サービスに努めた。参加628校３万6,740人。

（６）「第82回NHK全国学校音楽コンクール」

都府県（北海道は地区），ブロックの各コンクールを経て選ばれた小学校・中学校・高等学校の代表各11校（組）が，10月10～12日にNHKホールで行った全国コンクールに出場した。課題曲のテーマは「ピース♪」。金賞：日野市立七生緑小学校（３年連続３回目），町田市立鶴川第二中学校（２年連続２回目），福島県立郡山高等学校（初受賞）。

全参加校数：小学校の部898校，中学校の部1,234校，高等学校の部444校，計2,576校。

（７）第32回NHK杯全国中学校放送コンテスト

各都府県（北海道は地区）大会は６～７月に実施，全国大会決勝は８月19日，千代田放送会館で実施した。部門は，アナウンス・朗読・ラジオ番組・テレビ番組の４部門。参加校は全国で600校。各部門の参加数：アナウンス902人，朗読1,419人，ラジオ番組139作品，テレビ番組118作品。

（８）第62回NHK杯全国高校放送コンテスト

６月に各都道府県大会，７月21～22日に国立オリンピック記念青少年総合センター，23日にNH

Kホールで全国大会を実施した。部門は，アナウンス・朗読・ラジオドキュメント・テレビドキュメント・創作ラジオドラマ・創作テレビドラマの６部門。参加校は全国で1,662校。参加生徒数延べ１万8,194人。

（９）アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2015

全国の高等専門学校57校（62キャンパス）から124チームが参加して，競技課題に従い，自らのアイデアを駆使して想像力と技術力を競った。８地区からの選抜25チームが11月22日の全国大会（会場：国技館）に出場。地区大会からの延べ参加者１万4,785人。

（10）NHK学生ロボコン2015～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～

事前審査を通過した国内20チームが６月７日の大会（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）に出場した。参加者1,279人。優勝チームは，８月23日にインドネシア・ジョグジャカルタで開催されたABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場した。

（11）渋谷DEどーも2015

「放送90年記念番組や各番組の積極的な周知を展開」「８Kスーパーハイビジョンやハイブリッドキャストなど，次世代の放送サービスを分かりやすく紹介」を柱に，ファミリー層をメインターゲットとした内容のイベントを５月３～５日にNHK放送センターで実施した。参加者７万1,331人。

（12）「NHK WONDERLAND 2015」

サブカルチャーの聖地として若者でにぎわう秋葉原のベルサール秋葉原で，７月18～19日，番組収録や展示イベントなどを実施した。来場者３万3,005人。

（13）NHKサイエンススタジアム2015

日本科学未来館で12月５～６日に，科学系番組の公開収録・展示・ワークショップ・ミニステージなどを実施した。NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあいを紹介する『あなたのやさしさを2015』とも連動。来場者２万8,010人。

Ⅳ．教育・教養イベント

（１）NHK文化祭2015

10月15～22日，NHK放送センターを中心に，教育番組の国際コンクール「日本賞」を実施。公開イベント「NHK文化祭2015たいけん広場」（10月31日～11月１日）では，Eテレの番組をベースにした親子で楽しめるステージのほか，ワークショップ，会場内からの公開生放送や公開収録などを実施した。「ふるさとの食　にっぽんの食・東京フェスティバル」とも連動。来場者３万4,328人。

（２）放送教育関連イベント

①第66回放送教育研究会全国大会

８月４～５日に東京都渋谷区で，NHK for Schoolの番組やウェブサイトを活用した実践発表，番組制作者・研究者も交えた討議などを行い，放送教育の研究と交流を深める場となった。第19回視聴覚教育総合全国大会と合同で実施した。参加者1,302人。

②放送教育研究会地方大会

各地方放送教育研究会などと共催し，全国８ブロックで地方大会を実施した。参加者2,082人。（表２）

③NHK for School・ICT活用講座

放送教育実践者による模擬授業やメディア教育研究者のワークショップを通じて，番組やウェブサイトの活用を支援する。全国８会場で実施した。参加者440人。

表２　2015年度「放送教育研究会地方大会」

ブロック	タイトル	日程	開催地	全体会会場	参加者数
北海道	第67回北海道放送教育研究大会　札幌大会	11月６日（金）・７日（土）	北海道札幌市	札幌サンプラザ	510人
東北	第56回放送教育研究会東北大会　青森大会	11月13日（金）	青森県藤崎町	藤崎町文化センター	451人
東海・北陸	第53回東海北陸地方放送教育研究大会 第47回愛知県放送教育特別研究会	８月21日（金）	愛知県名古屋市	ウインクあいち	220人
近畿	第64回近畿放送教育研究大会　滋賀大会 第65回近畿学校視聴覚教育研究大会　滋賀大会	11月20日（金）	滋賀県草津市	草津アミカホール	210人
中国	中国地方放送教育研究大会　鳥取（米子）大会	８月７日（金）	鳥取県米子市	米子コンベンションセンター	266人
四国	第49回放送教育研究会四国大会　研修大会	８月３日（月）	愛媛県松山市	エスポワール愛媛文教会館	100人
九州	第64回九州地方放送教育研究大会　福岡大会	11月13日（金）	福岡県福岡市	都久志会館	325人
				７会場計	2,082人

（３）NHK全国短歌・俳句大会

１月23日（短歌），24日（俳句），NHKホールで実施した。NHK学園共催。応募は短歌４万8,730首，俳句９万8,573句。参加者は短歌1,485人，俳句2,103人。

（４）NHK公開セミナー

『大河ドラマ』「花燃ゆ」「真田丸」，『コズミック　フロント』『にっぽん百名山』『生命大躍進』を題材に，NHK文化センター，地方自治体などと共催，全国18会場で実施した。参加者4,883人。

（５）学校へ出向き実施するイベント

出演者が直接小・中学校へ出向いてNHKとの接触の機会を作り，公共放送への理解を深めてもらった。

○NHKこども音楽クラブ～N響が○○小学校（中学校）にやってきた～

NHK交響楽団のメンバーが小・中学校に出向いて児童・生徒との交流を交えながら演奏を行うミニコンサート。15年度は全国の小・中学校９会場（うち，６会場が東日本大震災や気象災害の被災地での実施）で実施した。クラシックの名曲を演奏。参加者3,269人。

Ⅴ．美術・展博イベント

『大河ドラマ』や『NHKスペシャル』などの番組と連動したNHKならではの展覧会を開催した。特に，放送90年を記念した『NHKスペシャル』と連動して開催した特別展「生命大躍進」では，世界的にも貴重な化石を国内外から集めて40億年の生命史を紹介し，東京・名古屋で44万8,809人の入場者を記録した。

同じく，放送90年を記念した『NHKスペシャル』「アジア巨大遺跡」と連動して開催した特別展「始皇帝と大兵馬俑（だいへいばよう）」は，最新の発掘成果を取り入れながら，秦の始皇帝と兵馬俑の全容を紹介し，東京で48万3,809人の入場者を記録した。

また，放送90年を記念したラジオ特別番組やウェブサイトと連動して開催した「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史」は，約700万点に及ぶ大英博物館のコレクションから厳選された100作品を通じて，人類200万年の創造の歴史を物語る試みで，全国で63万7,367人の入場者を記録した。（表３⇒p.345）

Ⅵ．音楽・伝統芸能イベント

（１）NHK音楽祭2015

13年目を迎えた「NHK音楽祭」。15年は「MEET the CLASSICS～名曲と出会う場所～」を全体コンセプトに設定。「極上のオーケストラ・サウンド－真価を発揮する指揮者たち－」をテーマに据えたオーケストラ公演に加えて，クラシック音楽来場者層のすそ野を広げる特集番組などを実施した。総入場者１万6,964人。

〔有料公演／オーケストラ公演〕

①10月１日，ロンドン交響楽団

指揮：ベルナルト・ハイティンク，ピアノ：マレー・ペライア，曲目：ベートーベン／ピアノ協奏曲 第４番 ト長調 作品58ほか。入場者2,461人。

②10月８日，NHK交響楽団

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ，ピアノ：ジャン・イヴ・ティボーデ，曲目：ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調ほか。入場者2,885人。

③11月４日，チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

指揮：イルジ―・ビエロフラーヴェク，曲目：スメタナ／わが祖国。入場者2,690人。

④11月16日，hr交響楽団

指揮：アンドレス・オロスコ・エストラーダ，バイオリン：五嶋龍，曲目：チャイコフスキー／バイオリン協奏曲 ニ長調 作品35ほか。入場者3,151人。

〔主な特集番組〕

⑤『NHK音楽祭2015　オープニング･コンサート』

９月30日　NHKホール　2,750人

⑥『リサイタル・ノヴァ』

10月15日　ふれあいホール　211人

⑦アニ・オケ！クラシック～“ネ申曲”降臨～

10月16日　NHKホール　2,058人

⑧『きらクラ！』

10月23日　ふれあいホール　267人　など

（２）第42回NHK古典芸能鑑賞会

10月28日，NHKホール。有料公演。

①箏曲・尺八メドレー「日本の四季」

唄・箏：米川文子，山勢松韻，尺八：川瀬順輔ほか。

②狂言「朝比奈」大蔵流

山本東次郎，山本則重

③歌舞伎　新古演劇十種の内「身替座禅」常盤津連中　長唄囃子連中

尾上菊五郎，市川左團次ほか。入場者1,349人。

表３　2015年度　美術・展博イベント

展覧会名	主催	会場	開催年	開会日	閉会日	会期	入場者数（会場別）	総入場者数
ボストン美術館華麗なるジャポニスム展	開催地美術館，ボストン美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	世田谷美術館	2014（平成26）	６月28日（土）	９月15日（月･祝）	69	166,781	342,536
		京都市美術館	2014（平成26）	９月30日（火）	11月30日（日）	57	97,847	
		名古屋ボストン美術館	2015（平成27）	１月２日（金）	５月10日（日）	111	77,908	
青磁のいま－受け継がれた技と美　南宋から現代まで	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	東京国立近代美術館工芸館	2014（平成26）	９月13日（土）	11月24日（月･祝）	63	12,057	35,117
		兵庫陶芸美術館	2015（平成27）	３月７日（土）	５月24日（日）	68	9,153	
		静岡市美術館	2015（平成27）	６月13日（土）	８月16日（日）	56	13,907	
フェルディナント・ホドラー展	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社。有料	国立西洋美術館	2014（平成26）	10月７日（火）	１月12日（月･祝）	81	102,026	160,527
		兵庫県立美術館	2015（平成27）	１月24日（土）	４月５日（日）	62	58,501	
没後400年古田織部展	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	松屋銀座	2014（平成26）	12月30日（火）	１月19日（月）	20	87,059	127,337
		奥田元宋・小由女美術館	2015（平成27）	３月２日（月）	４月12日（日）	41	16,985	
		佐川美術館	2015（平成27）	10月10日（土）	11月23日（月･祝）	39	23,293	
特別展「みちのくの仏像」	東京国立博物館，NHK，NHKプロモーション，読売新聞社。有料	東京国立博物館特別５室	2015（平成27）	１月14日（水）	４月５日（日）	73	179,521	179,521
ボッティチェリとルネサンスフィレンツェの富と美	Ｂｕｎｋａｍｕｒａ，NHK，NHKプロモーション，毎日新聞社。有料	Bunkamura ザ・ミュージアム	2015（平成27）	３月21日（土･祝）	６月28日（日）	98	183,126	183,124
大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史	開催地美術館，大英博物館，朝日新聞社，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	東京都美術館	2015（平成27）	４月18日（土）	６月28日（日）	62	300,436	637,367
		九州国立博物館	2015（平成27）	７月14日（火）	９月６日（日）	49	134,700	
		神戸市立博物館	2015（平成27）	９月20日（日）	１月11日（月･祝）	96	202,231	
2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」	開催地博物館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	山口県立萩美術館・浦上記念館	2015（平成27）	４月18日（土）	５月24日（日）	34	14,107	68,633
		江戸東京博物館	2015（平成27）	６月４日（木）	７月20日（月･祝）	41	49,961	
		アーツ前橋	2015（平成27）	８月１日（土）	９月６日（日）	32	4,565	
ヘレン･シャルフベック－魂のまなざし	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社，日本経済新聞社ほか。有料	東京芸術大学大学美術館	2015（平成27）	６月２日（火）	７月26日（日）	48	49,880	81,701
		宮城県美術館	2015（平成27）	８月６日（木）	10月12日（月･祝）	59	11,305	
		奥田元宋・小由女美術館	2015（平成27）	10月30日（金）	１月３日（日）	62	9,092	
		神奈川県立近代美術館 葉山	2016（平成28）	１月10日（日）	３月27日（日）	69	11,424	
北大路魯山人の美　和食の天才	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社，日本経済新聞社ほか。有料	京都国立近代美術館	2015（平成27）	６月19日（金）	８月16日（日）	51	54,669	163,865
		足立美術館	2015（平成27）	８月26日（水）	10月12日（月･祝）	48	69,378	
		三井記念美術館	2016（平成28）	４月12日（火）	６月26日（日）	67	39,818	
クレオパトラとエジプトの王妃展	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社，朝日新聞社。有料	東京国立博物館平成館	2015（平成27）	７月11日（土）	９月23日（水･祝）	66	267,959	366,308
		国立国際美術館	2015（平成27）	10月10日（土）	12月27日（日）	68	98,349	
特別展「生命大躍進」	開催地博物館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	国立科学博物館	2015（平成27）	７月７日（火）	10月４日（日）	86	335,697	634,563
		名古屋市科学館	2015（平成27）	10月17日（土）	12月13日（日）	49	113,112	
		愛媛県美術館	2016（平成28）	１月16日（土）	４月３日（日）	68	77,334	
		大阪市立自然史博物館	2016（平成28）	４月16日（土）	６月19日（日）	57	108,420	
		岡山シティミュージアム	2016（平成28）	７月15日（金）	９月４日（日）	50	—	

展覧会名	主催	会場	開催年	開会日	閉会日	会期	入場者数（会場別）	総入場者数
ニキ・ド・サンファル展	国立新美術館，フランス国立美術館連合グランパレ（Rmn－GP），ニキ芸術財団，NHK，NHKプロモーション。有料	国立新美術館	2015（平成27）	９月18日（金）	12月14日（月）	77	89,642	89,642
遊亀と靫彦－師からのたまもの・受け継がれた美－	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	滋賀県立近代美術館	2014（平成26）	10月11日（土）	11月24日（月・祝）	39	10,341	19,305
		宇都宮美術館	2015（平成27）	４月５日（日）	５月17日（日）	36	8,964	
特別展「始皇帝と大兵馬俑」	開催地博物館，陝西省文物局，陝西省文物交流中心，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	東京国立博物館平成館	2015（平成27）	10月27日（火）	2月21日（日）	94	483,809	483,809
		九州国立博物館	2016（平成28）	３月15日（火）	６月12日（日）	79	191,222	
		国立国際美術館	2016（平成28）	７月５日（火）	10月２日（日）	79	—	
特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ－天才の挑戦」	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館，毎日新聞社，NHK，NHKプロモーション。有料	江戸東京博物館	2016（平成28）	１月16日（土）	４月10日（日）	76	270,012	270,012
没後100年宮川香山	開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料	サントリー美術館	2016（平成28）	２月24日（水）	４月17日（日）	48	51,081	103,282
		大阪市立東洋陶磁美術館	2016（平成28）	４月29日（金・祝）	７月31日（日）	81	52,201	
		瀬戸市美術館	2016（平成28）	10月１日（土）	11月27日（日）	56	—	
カラヴァッジョ展	国立西洋美術館，NHK，NHKプロモーション，読売新聞社。有料	国立西洋美術館	2016（平成28）	３月１日（火）	６月12日（日）	92	397,961	397,961
第17回国際バラとガーデニングショウ	国際バラとガーデニングショウ組織委員会（毎日新聞社，NHK，スポーツニッポン新聞社）。有料	西武プリンスドーム	2015（平成27）	５月12日（火）	５月17日（日）	6	196,652	196,652
第62回日本伝統工芸展	社団法人日本工芸会，開催地NHK放送局，朝日新聞社，文化庁（東京展のみ），開催地教育委員会など。一部有料	日本橋三越本店	2015（平成27）	９月16日（水）	９月28日（月）	13	137,850	257,498
		名古屋三越栄店	2015（平成27）	９月30日（水）	10月５日（月）	6	24,041	
		京都髙島屋	2015（平成27）	10月７日（水）	10月12日（月・祝）	6	16,439	
		大阪府咲洲庁舎咲洲ホール	2015（平成27）	10月17日（土）	10月23日（金）	7	3,516	
		石川県立美術館	2015（平成27）	10月30日（金）	11月８日（日）	10	8,654	
		岡山県立美術館	2015（平成27）	11月12日（木）	11月29日（日）	17	6,569	
		島根県立美術館	2015（平成27）	12月２日（水）	12月23日（水）	22	7,949	
		香川県立ミュージアム	2016（平成28）	１月２日（土）	１月17日（日）	16	5,750	
		仙台三越	2016（平成28）	１月21日（木）	１月26日（火）	6	18,129	
		福岡三越	2016（平成28）	２月２日（火）	２月７日（日）	6	10,840	
		松山三越	2016（平成28）	２月16日（火）	２月21日（日）	6	9,056	
		広島県立美術館	2016（平成28）	２月24日（水）	３月13日（日）	19	8,705	
第15回　東京国際キルトフェスティバル　－布と針と糸の祭典－	東京国際キルトフェスティバル実行委員会（NHK，読売新聞社，東京国際キルトフェスティバル組織委員会）。有料	東京ドーム	2016（平成28）	１月21日（木）	１月27日（水）	7	230,489	230,489

展覧会名	主催	会場	開催年	開会日	閉会日	会期	入場者数（会場別）	総入場者数
世界らん展日本大賞2016	世界らん展日本大賞実行委員会（読売新聞社，NHK，世界らん展組織委員会）。有料	東京ドーム	2016（平成28）	２月13日（土）	２月19日（金）	7	139,146	139,146

（３）NHK交響楽団演奏会地方公演

青森・北海道公演／８月25日青森市，８月26日函館市，８月28日旭川市，８月29日北見市，８月31日札幌市，指揮：ヨーン・ストルゴーズ，ピアノ：アリス・紗良・オット，曲目：ベートーベン／「エグモント」序曲，ピアノ協奏曲 第３番 ハ短調 作品37，交響曲 第５番 ハ短調 作品67「運命」。入場者7,528人（５会場）。有料公演。

大阪公演／16年２月20日大阪市，NHK大阪ホール，指揮：パーヴォ・ヤルヴィ，ピアノ：カティア・ブニアティシュヴィリ，曲目：リヒャルト・シュトラウス／変容，シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54，リヒャルト・シュトラウス／交響詩「ツァラトゥストラはこう語った」作品30。入場者1,171人。有料公演。

四国公演／16年２月28日高松市，２月29日鳴門市，３月１日高知市，指揮：リオネル・ブランギエ，バイオリン：アラベラ・美歩・シュタインバッハー，曲目：チャイコフスキー／バイオリン協奏曲 ニ長調 作品35，ムソルグスキー（ラヴェル編曲）／組曲「展覧会の絵」。入場者4,426人（３会場）。有料公演。

（４）第84回日本音楽コンクール

毎日新聞社と共催。各部門予選・本選を経て入賞者を決定。本選会は10月22～27日，東京オペラシティコンサートホール。入場者3,224人（本選会）。本選各部門の第１位は次のとおり。クラリネット部門：勝山大舗（東京都交響楽団），コーハン・イシュトヴァーン（東京音楽大学），声楽部門：城宏憲（東京二期会会員），ピアノ部門：黒岩航紀（東京芸術大学修士），バイオリン部門：小川恭子（桐朋学園大学），作曲部門：向井響（桐朋学園大学），東俊介（カールスルーエ音楽大学ゾリステンクラッセ課程修了），トランペット部門：守岡未央（洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団）。

（５）第59回NHKニューイヤーオペラコンサート

１月３日，NHKホール。有料公演。

ソプラノ：安藤赴美子，小川里美，佐藤康子，砂川涼子，中嶋彰子，森麻季，嘉目真木子，メゾ・ソプラノ：加藤のぞみ，加納悦子，清水華澄，林美智子，カウンター・テナー：藤木大地，テノール：櫻田亮，西村悟，福井敬，村上敏明，望月哲也，与儀巧，バリトン：上江隼人，久保和範，黒田博，髙田智宏，バス：妻屋秀和，特別ゲスト：首藤康之（舞踏家），中村恩恵（舞踊家），オルガン：鈴木優人，フルート：上野星矢，合唱：新国立劇場合唱団，二期会合唱団，藤原歌劇団合唱部，管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団，指揮：山田和樹，司会：石丸幹二，髙橋美鈴アナウンサー。入場者3,072人。

（６）第14回 東京JAZZ

９月４～６日，東京国際フォーラムほか。有料公演。出演：ボブ・ジェームス＆東京フィルハーモニー交響楽団，ニュー・センチュリー・ジャズ・クインテット，アンナ・マリア・ヨペック カルテット，KYOTO JAZZ SEXTET，エスペランサ・スポルディング，ジャック・ディジョネット・トリオ，エリ・デジブリ・カルテット，日野皓正＆ラリー・カールトンSUPER BAND，ハービー・ハンコック＆ウェイン・ショーター，スティーヴ・ガッド・バンド，リー・リトナー，フォープレイほか。入場者８万490人。

Ⅶ．スポーツイベント

（１）ラジオ体操・みんなの体操会

かんぽ生命保険，全国ラジオ体操連盟との共催。

①夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

７月20日～８月31日，全国43会場で実施し，ラジオ第１で生放送した。このうち，８月２日は金沢市で「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」として実施した。参加者７万5,039人。

②特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会

４月19日，５月10，17日，６月14，21日，９月13，27日，10月４，11日，全国９会場で実施し，ラジオ第１で生放送した。参加者１万287人。

（２）2015NHK杯国際フィギュアスケート競技大会（第37回大会）

日本スケート連盟主催，NHK共催により11月27～29日，ビッグハット（長野県長野市）で実施した。男子シングルは羽生結弦（日本）が世界最

高得点（当時）で優勝，女子シングルは宮原知子（日本）が初優勝した。参加選手は９か国･55人。入場者１万2,632人。

大会に先立ち「NHK杯フィギュアスケート教室」を行った。参加者120人。

（３）天皇盃　第21回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催，中国新聞，NHKの共催で16年１月24日に実施した。広島平和記念公園前をスタート・フィニッシュとする７区間48kmコース。愛知県チームが15年ぶり２度目の優勝。観覧者数25万人。平和記念公園に設置した大型モニターで中継映像を公開。NHK広島放送センタービルでは「駅伝ふるさとひろば」を３日間実施した。来場者１万7,816人。

（４）皇后盃　第34回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催，京都新聞，NHKの共催で16年１月17日に実施した。京都市西京極総合運動公園陸上競技場をスタート・フィニッシュとする９区間42.195kmコース。愛知県チームが初優勝。観覧者数34万2,000人。競技場に設置した大型モニターで中継映像を公開したほか，少女ミニ駅伝などを実施した。

（５）第71回びわ湖毎日マラソン大会

日本陸上競技連盟，毎日新聞社，滋賀県，滋賀県教育委員会，大津市，大津市教育委員会の主催，NHKの共催で16年３月６日に実施した。皇子山陸上競技場をスタート・フィニッシュとするコース。ルーカス・ロティッチ（ケニア）が優勝。日本人トップは北島寿典（２位）。観覧者数23万人。皇子山総合運動公園に設置した大型モニターで中継映像を公開したほか，「小学生1,000m記録会」を実施した。

（６）第17回長野オリンピック記念長野マラソン大会

日本オリンピック委員会，日本陸上競技連盟，長野県，長野市，信濃毎日新聞社の主催，NHKの共催で４月19日に実施した。長野運動公園をスタートし，長野オリンピックスタジアムをフィニッシュとするコース。男子はヘンリー・チルチル（ケニア），女子はベアトリス・ジェプケンボイ（ケニア）が優勝。出場選手数9,558人。観覧者数は26万人。ゴール近くのイベント会場で「NHK長野放送局ファミリーステーション」を展開した。

（７）オープンゴルフ選手権競技

日本ゴルフ協会の主催，NHKの共催で，男子･女子・シニアの３大会を実施した。会場に設置した大型モニターで中継映像を公開した。

①第48回日本女子オープンゴルフ選手権競技

10月１～４日，片山津ゴルフ倶楽部・白山コース（石川県加賀市）で実施した。チョン・インジ（韓国）が優勝。入場者３万1,571人。

②第80回日本オープンゴルフ選手権競技

10月15～18日，六甲国際ゴルフ倶楽部・東コース（兵庫県神戸市）で実施した。小平智が優勝。入場者２万2,535人。

③第25回日本シニアオープンゴルフ選手権競技

10月29日～11月１日，COCOPA RESORT CLUB白山ヴィレッジゴルフコース・QUEENコース（三重県津市）で実施した。平石武則が優勝。入場者１万3,849人。

（８）第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会

日本サッカー協会，日本プロサッカーリーグの主催，NHKおよび共同通信社の共催で実施した。都道府県代表47チームとシード41チーム（J1-18，J2-22，JFL-1）の88チームで８月29日～16年１月１日に実施。味の素スタジアム（東京都調布市）での決勝戦（入場者４万3,809人）では，ガンバ大阪が優勝。大会を通じての総入場者33万2,663人。

（９）各都道府県サッカー選手権大会

45都道府県大会を各都道府県サッカー協会が主催し，NHKは主催または共催で実施した。各都道府県優勝チームは天皇杯の各都道府県代表として出場。

（10）第52回全国大学ラグビーフットボール選手権大会および第53回日本ラグビーフットボール選手権大会

大学選手権，日本選手権ともに，日本ラグビーフットボール協会が主催，NHKが共催で実施した。

大学選手権は11月22日～16年１月10日に実施。決勝戦は秩父宮ラグビー場（東京都港区）で行われ，帝京大学が７年連続７回目の優勝。大会を通じての総入場者12万8,602人。

日本選手権は16年１月31日に秩父宮ラグビー場でトップリーグ優勝チームと大学選手権優勝チームが対戦し，パナソニック ワイルドナイツが優勝。入場者１万2,721人。

（11）JAPAN CUP 2015 チアリーディング日本選手権大会

日本チアリーディング協会の主催，NHKの共催で８月28～30日，国立代々木競技場・第一体育館で実施した。207チーム3,009人が参加。優勝は，〔中学校部門〕梅花中学校（大阪府），〔高等学校部門〕箕面自由学園高等学校（大阪府），〔大学部

門〕日本文理大学（大分県），〔社会人部門〕クラブチーム　ツイスターズ・A（東京都）。入場者２万2,565人。

（12）NHKスポーツパーク

NHK解説者や一流の講師によるスポーツ教室とトークショーなどを組み合わせた家族で楽しめる総合的なスポーツイベント。「松岡修造のテニスパーク」「バレーボールパーク」を全国４会場で実施した。参加者5,026人。

（13）NHKジュニアスポーツ教室

野球，サッカー，バレーボール，水泳，剣道，ソフトテニス，フィギュアスケートの各競技種目を一流講師が全国11会場で指導した。参加者1,513人。

（14）FIFA女子ワールドカップ2015カナダ大会　８Kスーパーハイビジョン　パブリックビューイング

女子ワールドカップを８K映像で体験するPVイベントを神奈川県横浜市と埼玉県川口市の２会場で実施。８試合のライブ・録画上映のほか，サッカー解説者によるスペシャルトーク，日本代表選手の記念撮影パネルの展示を行った。参加者2,507人。

Ⅷ．東日本大震災復興支援イベント

（１）NHK公開復興サポート　明日へ

被災県に赴き，元気と笑顔を届けるべく，幅広い番組・イベントを短期間に集中して実施した。

岩手県宮古市の県立大学宮古短期大学部を会場に，５月24日に10番組と11イベント･展示を実施。来場者3,793人。

宮城県多賀城市の東北学院大学多賀城キャンパスを会場に，11月８日に９番組と13イベント・展示を実施。来場者4,320人。

（２）東日本大震災５年「NHK杯フィギュア　スペシャルエキシビション」

NHK，NHKプロモーション，日本スケート連盟の主催，盛岡市の共催で，16年１月９日に盛岡市アイスアリーナ（岩手県盛岡市）で開催。被災地に笑顔と元気を届けようと，トップスケーターたちが共演した。特別企画として，浅田真央選手がセルフプロデュース演目「ジュピター」と，東北にゆかりのある荒川静香さん，鈴木明子さん，羽生結弦選手，本田武史さんの４人が「花は咲く」スペシャルバージョンを披露した。参加者は２公演合計で8,232人。

（３）明日へつなげるライブ

８月16日　郡山ユラックス熱海　732人

１月24日　高萩市民体育館　567人

＊『NHK公開復興サポート』内で実施した「明日へつなげるライブ」を除く

（４）SMAPプレゼンツ　NHKのど自慢in山田町

『NHKのど自慢』の番組開始70年を記念して，東日本大震災の被災地である山田町（山田町中央公民館）を会場に，地域の皆さんに歌で安らぎや元気を届けるため公開収録を実施した。来場者数977人。

（５）震災から５年　“明日へ”コンサート

東日本大震災から継続して行っている「“明日へ”コンサート」が５年の節目を迎え，今回初めて福島県会津若松市（會津風雅堂）をメイン会場にして実施。音楽の力を通して復興へのメッセージを届け，震災の記憶を風化させないよう被災地の今や復興への取り組みを紹介した。来場者数1,449人。

Ⅸ．会館公開・展示

１．NHKスタジオパーク

1965年「見学者コース」として開設。85年「NHK展示プラザ」に名称変更，さらに95年３月22日，放送開始70周年を記念して現行の「NHKスタジオパーク」となった。07年６月に総入場者数1,000万人を達成した。11年には，４月から約半年休館し，10月10日にリニューアルオープン，放送の完全デジタル化に合わせて展示コーナーを一新した。「８Kスーパーハイビジョン」の上映，番組制作体験や放送の舞台裏に触れることができるコーナーを拡充した。15年８月12日「NHKスタジオパーク」としての来場者数が1,500万人を突破。10月４日には開設から50年を迎えた。15年度，１年間の入場者は55万9,879人。

【主な展示内容】

①８Kスーパーハイビジョン

360インチ大画面の臨場感あふれる超高精細映像と22.2chの立体音響を備えた次世代テレビ。

②CR-350スタジオ

新旧のNHK番組を大画面で上映。

③アニメファクトリー

アフレコ体験などアニメの制作に触れる。

④クリエイティブラボ

映像と音を編集，オリジナル番組の制作を体験。

⑤スタジオパークNEWS

アナウンサーやカメラマンの体験に挑戦。

⑥CT-450スタジオ

『スタジオパークからこんにちは』『土曜スタジオパーク』『日曜バラエティー』などの番組を公開。

⑦ネイチャーカメラマン

自然番組の撮影に使う特殊カメラの操作を体験。

このほか，レストランやショップなどがある。

所要時間：１時間半
開館時間：午前10時～午後６時（入館は午後５時30分まで）
休館日　：原則として毎月第４月曜日（祝日・振替休日と重なる場合は，その翌日）
※休館日は変更あり
入場料　：大人200円，子供無料（高校生以下および18歳未満，65歳以上も無料。団体・20人以上の大人は150円）

２．みんなの広場　ふれあいホール

「みんなの広場　ふれあいホール」では，さまざまな公開番組やイベントなどを開催している。NHK紅白歌合戦の特別展などとともに一般貸し出し（有料）も行っている。15年度は，ギャラリーとアーカイブス合わせて３万7,996人の利用があった。

開館時間：午前10時～午後６時
入場料　：無料

３．NHK放送博物館

NHK放送博物館は，15年度も積極的・意欲的に事業展開を行った。幅広い年代層にわたる入館者の確保・増加を図りながら，視聴者とNHKを結ぶ最前線としての重要な役割を果たしている。

放送博物館の業務運営の基本は，放送の歴史にとって貴重な資料（放送文化財）の計画的な収集，分類，分析，保存，展示などである。さらに，これらの上に立って行う事業展開の２本の大きな柱として，企画展示とイベントがある。

15年度の特記事項としては，「放送90年」事業である「展示リニューアル」を実施したことが挙げられる。15年２月16日から全館休館して改修工事を進め，16年１月29日のオープニングセレモニー・内覧会を経て，１月30日にオープン（一般公開）した。15年度の開館日数は54日，入館者数は2万5,158人であった。

今次リニューアルにあたっては，13年にNHK放送文化研究所とともに実施に向けた議論を開始し，「放送90年を伝えるとともに，放送の「いま」と「これから」を感じる展示に」を基本コンセプトとして置いた。その下に，①展示の重複感を解消し，時系列的に整理，②あらゆる来館者層に応える展示に，③展示環境を抜本的に改善，④機材を更新し，新しい展示手法を導入，⑤特別展スペースを確保して内容を充実，⑥収蔵資料のデジタル・アーカイブ化，の６本の柱を立て，これらの柱に沿って事業を推進することとした。スケジュールとしては，建築構造の改良や老朽化した設備の更新を先行して進めた。並行して具体的な展示プランを策定し，建築・設備工事の完了後に展示工事に入った。

展示プランの検討においては，まず，放送博物館が所蔵する約３万点の資料を精選した。そして従来の歴史展示とテーマ別展示を一新して分かりやすく構成し，体験型の展示を充実することにした。これまで培った豊かな放送文化を後世に伝えるとともに，装いを新たにした「放送体験スタジオ」で放送の現在を，愛宕山ホールを改修した「愛宕山８Kシアター」で未来を体感してもらえるよう工夫した。いわば，放送の「過去」「現在」「未来」を通観できる構成とした訳である。

リニューアルのPRにあたっては，キャッチコピー「放送の100年へ」を置いて，“歴史を踏まえながら未来へ漕ぎ出す”意思を表明している。このコピーと，NHK放送博物館の新鮮なデザインロゴを配したキービジュアルを，ポスター，チラシ，ガイドマップ，展示概要パンフレット，デジタルサイネージなどに積極的に展開させた。

展示の概要は次のとおりである。▽１階のウェルカムゾーンには，放送歴史絵図，みんなに届け！ミュージアムチャンネルなど。▽２階には，愛宕山８Kシアター，放送体験スタジオ，テーマ展示ゾーン（「テレビドラマの世界」「オリンピックの感動を伝える」「NHKと音楽」「こども番組がいっぱい」），放送文化賞コーナー。▽３階のヒストリーゾーンは，放送の歴史を大きく８つの時代区分でくくった。「放送の始まり」「全国に広がるラジオ」「戦時下の放送」「占領と放送」「テレビの登場」「テレビ時代の本格化」「多様化するテレビ番組」「多チャンネル時代の到来」の８区分である。さらに▽トピックコーナー（「テレビの実験時代」「カラーテレビとVTR」「衛星放送とハイビジョン」）を設けて，立体的に放送の歴史を把握できるよう工夫した。▽４階には従来通り，番組公開ライブラリーと図書・史料ライブラリーがある。

入館者に特に人気が高いのは，８Kシアター，

放送体験スタジオである。また，２階「テレビドラマの世界」の『梅ちゃん先生』のジオラマ，ドラマの衣装を疑似的に着用できる「バーチャルフィッティング」コーナー，３階の「街頭テレビ」「60年頃のお茶の間の風景」など再現コーナーにも足を止める人が多い。

資料の収集・保存，企画展示，イベント等，広報活動などの実施状況は次のとおりである。

（１）資料の収集・保存

リニューアル工事期間中も，放送史上貴重な資料（図書・文献，台本，機器など）の収集を行った。また，資料データベースの充実を図った。

（２）企画展示

「NHK放送博物館60年　特別展　時を重ねて伝えてきたこと」（16年１月30日～５月29日）を実施した。

（３）イベントなど

①イベント

「みんなの健康教室」「ワン・ミニット・ムービー～冒険物語をつくろう！～」を開催した。

②NHK番組を見る会

リニューアル工事期間中のため実施しなかった。リニューアルオープン後は愛宕山ホールを８Kシアターに衣がえし，開館時間中の毎正時に８Kの番組ソフトを上映しており，「番組を見る会」は休止している。

③移動放送博物館

例年実施している移動放送博物館の取り組みは休止し，NHKみんなの広場ふれあいホールでの特別展示（４月29日～９月30日）を開催した。期間中に2万2,640人が入場した。また，「放送90年特別巡回展示」を各地で実施した。熊本局（４月18日），京都局（６月26～28日），福島局（８月21～23日），名古屋局（８月29～30日），福山局（９月21～23日），大阪局（10月31日～11月３日），松山局（11月21～22日），札幌局（２月５～11日）に合計で２万3,631人が入場した。

④中高生のための放送講座

例年開催しているが，リニューアル工事期間中のため実施しなかった。

⑤学芸員実習

例年開催しているが，リニューアル工事期間中のため実施しなかった。

（４）広報活動，地域との連携強化

日本博物館協会，全国科学博物館協議会などの中核メンバーとして博物館相互のネットワーク作りに積極的に参画するとともに，産業文化博物館コンソーシアム（COMIC），港区ミュージアムネットワークなどの活動を通じて博物館・美術館などとの連携を密にしながら，地域文化の中核としての活動強化に努めた。また，15年度はリニューアルに関する広報，各種媒体の取材対応に力を注いだ。

NHKの情報公開

（１）NHKの情報公開の特色

01年７月から開始したNHKの情報公開の主な特色は，次の３点である。

①国や地方自治体，独立行政法人のように法律・条例によって義務付けられて行うのではなく，NHKが自主的に実施するものである。受信料は税金ではないこと，また，NHKは報道機関であることから，NHKの自主・自律性に配慮した結果である。

②放送番組や放送番組の編集に関する情報を記録した文書については，「開示の求め」の対象外としている。NHKが公共放送としての使命を果たしていくためには，放送番組編集の自由の確保は不可欠である。もし番組そのものや，番組素材，その制作・編成関係の文書を開示すると，自由な番組編集に支障が生じ，ひいては公共放送としての使命が果たせなくなることから，「開示の求め」の対象外とした。そのうえで，可能な範囲で関係情報の提供に努めていく。

③NHKの不開示等の判断に対して，第三者機関による公正・客観的なチェックの仕組みを整えている。外部の有識者で構成される「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」が，視聴者からの「再検討の求め」があった際に，審議委員会としての意見をNHKに述べる。NHKは，その意見を尊重して最終判断を行う。

（２）NHKの情報公開の仕組み

NHKの情報公開は，基本的枠組みを定めた「NHK情報公開基準」（00年12月制定）と，それをさらに具体化した「NHK情報公開規程」（01年６月制定）に基づいて進めている。この情報公開規程は，情報公開基準に基づき情報公開を実施していくために必要な事項を定めている。主な内容は次のとおり。

①「開示の求め」の対象となる文書

NHKの役職員が業務上共用するものとして保有している文書（電磁的に記録されたものを含む）が，「開示の求め」の対象となる。ただし，放送番組編集の自由を確保する観点等から，次のものについては対象外となる。

（ⅰ）放送番組および放送番組の編集に関する情報を記録したもの（放送番組の企画，取材，収録等について記録した文書など。ハードディスク・DVD等を含む）。
（ⅱ）書籍，雑誌等不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの。
（ⅲ）歴史的もしくは文化的な資料または学術研究用の資料としてNHK放送博物館等において特別の管理がされているもの。

②「開示の求め」のできる者

NHKの放送の視聴者。

③受付場所・方法

NHK放送センター，全国の放送局に，日本語で記入した「開示の求め」および「開示の求め手数料」を持参または郵送で提出する。

④開示できない文書

「開示の求め」の対象となる文書は，原則として開示する。ただし，次の情報（不開示情報）が記載されている場合を除く。

（ⅰ）NHKの権利利益，地位，事業活動に支障を及ぼすおそれがあるものや，特定の者に利益等を及ぼすおそれがあるもの。
（ⅱ）NHKの審議，検討，協議が円滑に行われることを阻害するおそれがあるもの。
（ⅲ）特定の個人を識別できるものや，個人の権利利益を害するおそれがあるもの。
（ⅳ）NHK以外の法人，団体，個人事業主の権利等を害するおそれがあるもの。
（ⅴ）NHKの保安に支障を及ぼすおそれがあるもの。
（ⅵ）契約によりNHKが守秘義務を課せられているものや，契約の相手方が開示を承諾しないもの。

⑤開示・不開示等の判断までの期間

申込書を受け付けた翌日から30日以内に開示・不開示等を判断し，書面により連絡する。

⑥開示の実施方法

視聴者が開示の連絡を受けた日から２週間以内に，閲覧またはコピーを提供する（電磁的に記録されたものについては，プリントアウトし，閲覧またはコピーを提供する）。

⑦費用

閲覧のためにコピーやプリントアウトが必要な場合も含め，次の費用は視聴者負担となる。

・開示の求め手数料：１件につき300円
・開示実施手数料
　白黒コピー　　：１枚につき10円
　カラーコピー　：１枚につき50円
・郵送料　　：実費

⑧「再検討の求め」

一部開示・不開示の判断結果について，視聴者は２週間以内に「再検討の求め」ができる。その場合NHKは，NHK情報公開・個人情報保護審議委員会に諮問し，その意見を尊重して開示・不開示等の最終的な判断を行い，直ちに書面により視聴者に連絡する。

⑨実施状況の公表

実施状況について，毎月，NHKの公開ホームページで公表する。

（３）「開示の求め」

①受付状況

15年度は，全国の放送局において，19人の視聴者による82件の開示の求めがあった。

②「開示の求め」の内容

15年度に受け付けた82件の内訳は次のとおりとなっている。（表４）

表４　「開示の求め」の内訳

分　野	件　数	割　合
経営	７件	8.5％
放送	17件	20.7％
営業	20件	24.4％
技術	０件	０％
広報・事業	３件	3.7％
総務・経理	35件	42.7％

③判断結果

81件について判断を終えた（取り下げ１件を除く）。（表５）

表５　「開示の求め」判断結果

判断結果	件　数	備　考
開　示	44件（A）	うち，一部開示26件
不開示	26件（B）	
対象外	11件	

④開示率（A／（A＋B））

70件についての開示率は62.9％である。

（４）NHK情報公開・個人情報保護審議委員会

NHK情報公開･個人情報保護審議委員会は,「開示の求め」についてのNHKの一部開示・不開示の判断に対して「再検討の求め」があった場合に，審議を行い，NHKに意見を述べる第三者機関である。

①委員

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会の委員は，５人以内で，経営委員会の同意を得て会長が委嘱する。任期は１期２年とし，原則は２期を限度とするが，会長判断でさらに再任することができる。15年度末現在，次の方々に委員を委嘱している。

委　員　長　斎藤　誠　　氏
（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
委員長代行　小泉　万里子　氏
（元厚生労働省宮城労働局長）
委　員　　椿　　愼美　氏（公認会計士）
委　員　　関　　葉子　氏
（弁護士・公認会計士）
委　員　　安藤　俊裕　氏
（元日本経済新聞社論説副委員長）

②開催回数

15年度，NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は，23回開催された。

（５）「再検討の求め」

①受付状況

15年度は，NHKが一部開示・不開示の判断をしたもののうち，40件について再検討の求めを受け付けた。

②審議結果

15年度，NHKはNHK情報公開・個人情報保護審議委員会に184件について諮問し，187件の答申を受けた（表６）。NHKは，すべての案件について，審議委員会の答申どおりの最終判断を行った。なお，その他１件を諮問前に開示した。

表６　2015年度審議結果

審議結果	件　数
当初判断どおり一部開示・不開示が妥当	157件
一部開示の範囲を広げるか，開示が妥当	８件
不開示ではなく一部開示・開示が妥当	22件

NHKの個人情報保護

（１）個人情報保護法

①個人情報保護法の施行

05年度から「個人情報の保護に関する法律」(個人情報保護法。以下「法律」という）が全面施行され，NHKもこの法律が定める「個人情報取扱事業者」に該当することから，さまざまな法律上の義務が課され，個人情報の取り扱いを適正に行うことが求められている。

②法律の義務の適用除外

この法律が成立する過程で，個人情報保護に関する「利用目的による制限」「適正な取得」「正確性の確保」「透明性の確保」といった基本原則が，「表現の自由」「報道・取材の自由」などの基本的人権を制約するおそれがあるとの指摘が，メディアを中心になされた。

このため，法律は，報道機関が報道目的で個人情報を取り扱う場合，著述を業とする者が著述目的で個人情報を取り扱う場合などは，個人情報取扱事業者としての義務の適用を除外した。その一方で，義務の適用が除外される場合については，事業者が自主的に個人情報の適正な取り扱いについての措置を講じ，それを公表するよう努めることを求めた。

（２）NHKの個人情報保護の取り組み

①NHKの取り組み

ア　NHK個人情報保護方針

NHKにおける個人情報保護に関する最上位の規程で，法律上の義務が適用除外となる報道・著述・学術研究分野を含め，NHK内の個人情報全般の取り扱いについて宣言的に定めている。

イ　NHK個人情報保護規程

法律上の義務の適用を受ける分野（営業・事務分野等）を対象に，実務上の手続きを中心に定めている。

視聴者本人から自己情報の「個人情報　開示等の求め」が出された場合，原則として視聴者が求める措置を行うこととなるが，開示するとNHKの業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合等は，求められた措置を行わなくてもよいとされている。

このような場合の救済策として，法律上の要請はないが，NHKとして自主的に，視聴者からの「再検討の求め」を受け付け，第三者機関であるNHK情報公開・個人情報保護審議委員会において審議することとしている。

ウ　報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程

法律上の義務が適用除外となる報道分野等について，自主的に，安全管理や苦情への対応について定めている。

②NHKにおける個人情報の管理・責任体制

上記規程に基づき，NHKにおける個人情報の管理については，副会長がこれを統括し（報道分

野等については放送総局長），各部局においては，各部局長が全責任を持って管理することとなっている。

しかしながら，15年度においては，個人情報の漏えいや紛失が合わせて８件発生した。

これらの事案はいずれもホームページで公表するなどしているが，NHKとして，今後はこのような事態が起きないよう，個人情報の取り扱いについては，くれぐれも細心の注意を払い，その適切な取り扱いに努めていく。

③個人情報の開示等の求めへの対応状況

15年度に視聴者本人から出された「個人情報開示等の求め」は，開示の求めが29件あり，判断結果は表７のとおりである。

表７　「個人情報　開示等の求め」への対応

判断結果	件
開示	23件
一部開示	２件
不開示	２件
適用外	１件

※取り下げ　１件

④「個人情報　再検討の求め」の審議状況

15年度に受け付けた個人情報に関する再検討の求めはなかった。

広　報

Ⅰ．経営広報

１．会長会見とマスコミ対応

会長定例記者会見をはじめ，臨時の記者会見，ブリーフィング，個別の取材対応などを通じて，NHKの経営情報をさまざまな形で発信した。

会長定例記者会見は原則月１回。会長と副会長，テーマに応じて関係役員が出席して，NHKや放送業界全体に関わることなどについて説明した。

「2020年を見据えたNHKビジョン」の実現を目指す新３か年計画（2015－2017）の初年度の取り組みとして，受信料の公平負担実現に向け，平成29年度末に過去最高の支払率80％，衛星契約割合50％の達成を目指すターゲット80の方針をはじめ，放送と通信の融合時代への的確な対応，さらに国際放送80年にあわせた番組PRなど，重点項目となる経営情報の積極発信に努めた。

放送法改正に併せて，放送のインターネットによる同時配信の広報強化にも努めた。同時配信は緊急災害報道などで計８回実施したほか，「試験的提供」は総合テレビを４週間，スポーツイベントで計３回実施し，検証結果も公表した。

放送センターの建て替えを現在地で実施し，2025年に施設の一部運用開始を目指す基本整備方針について，臨時の会長記者会見で丁寧に説明した。

危機管理対応では，『クローズアップ現代』「追跡“出家詐欺”～狙われる宗教法人～」をめぐるBPO放送倫理検証委員会の決定を受けて記者会見を開き，再発防止策を併せて公表した。

また，関連子会社の架空発注など不正行為事案についても随時，速やかに公表し，NHKグループ経営の観点から，再発防止や組織改革について報道発表し，広報番組でも視聴者に説明した。

◇会長定例記者会見の主な内容

４月　新年度のスタートにあたって
　　14年度の営業業績の見込み
　　NAB2015に最新の８Kコンテンツ，開発機器を出展
　　「渋谷DEどーも2015」

５月　14年度決算（速報）・営業業績（確定）
　　「FIFA女子ワールドカップ2015カナダ大会」放送計画
　　国際放送開始から80年
　　NHK教育番組，ベトナム国営テレビで放送
　　第69回技研公開

６月　第１期営業業績
　　高校野球100年の放送など取り組み～『高校野球100年のものがたり』
　　「NHKワールドTV」VOD（ビデオ・オン・デマンド）サービス開始

７月　就任１年半をむかえて
　　第42回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール
　　NHKオンデマンド・４K画質コンテンツ配信　動画配信事業者を拡充
　　「ABUロボコン2015」インドネシア・ジョグジャカルタ

９月　テレビ放送のインターネット同時配信の検証実験
　　第42回「日本賞」
　　NHK地域づくりアーカイブス
　　世界初！　HDR対応85V型８K液晶ディスプレーの開発
　　「きょうの料理」LINE公式アカウント開設

10月　PBI（国際公共放送会議）2015
　　テレビ放送のインターネット同時配信の検

証実験の参加者募集
国際共同制作の強化について～アフリカの放送局と共同制作
ロシア№１視聴率ドラマ『THE SNIFFER』リメイク権獲得
「CEATEC JAPAN 2015」に８Kスーパーハイビジョンを出展

11月　NHK杯国際フィギュアスケート競技大会の放送
認知症キャンペーン「認知症・高齢者のための回想法」ページ開設
NHK歳末・海外たすけあい
NHKサイエンススタジアム

12月　『連続テレビ小説』の海外展開強化～「カーネーション」世界20か国で放送へ
『NHK紅白歌合戦』８Kパブリックビューイングを実施

１月　新年にあたって
リオ五輪に向けたサッカー・アジア最終予選と全豪オープンテニスの放送
放送博物館のリニューアルオープン

２月　インターネット同時配信の検証実験結果（試験的提供B）
リオ五輪　地上波の主な中継予定種目
NHK文研フォーラム2016

３月　第67回日本放送協会放送文化賞
インターネット同時配信の検証実験結果（試験的提供A）
第５期末営業業績（確定）

◇その他の主な記者会見など

・NHK新放送センター建設予定地の決定　(6.9)
・『クローズアップ現代』放送に関するBPO意見を受けて再発防止策の説明　(11.6)
・タクシー不正使用による懲戒処分　(1.29)
・NHKアイテック不祥事の結果報告　(2.9)

２．国際広報

定例会見や個別の取材対応，国際イベントなどを通じて，NHKの国際放送や海外展開の取り組みなどを国内外に発信した。

新たな３か年経営計画（2015-2017年度）の柱の一つとして位置づけられた「国際発信の強化」については，「NHKワールドTV」や「ラジオ日本」の番組内容，取り組みを定例記者会見などで詳しく紹介。新年度の番組改定で新たに始まった大型ニュース番組や大型討論番組などをPRしたほか，日本を訪れる外国人旅行客の急増を受けて，国内各地域の観光情報などを世界に発信する取り組みを随時報道発表した。インターネット分野では，６月，国際放送のホームページで放送後の番組を視聴できるビデオ・オン・デマンド（VOD）サービスの開始について広報した。

また，海外展開事業についても内外に積極的に発信した。アフリカのテレビ局との初めての国際共同制作や『連続テレビ小説』の海外展開の強化，海外のテレビ局への業務支援を，定例会見や個別の取材対応などを通じて紹介した。

NHKの災害報道は，海外メディアの関心が高く，アジア各国のメディアから取材を受けた。東日本大震災の後，NHKが進める防災・減災報道の最新の取り組みを紹介し，タイやフィリピンの大手紙に掲載された。

NHKが加盟しているABU（アジア太平洋放送連合）関連のイベントでも広報業務を行った。８月，インドネシアで行われた「ABUロボコン2015ジョグジャカルタ大会」では，事前に会長会見で概要や見どころを紹介。広報対応のため国際広報の職員を現地に派遣し，競技の様子や結果をまとめた報道資料を内外メディアにリリースした。また，10月にトルコのイスタンブールで開催されたABU総会では，優れた番組に贈られるABU賞の受賞結果などについて報道発表を行った。

広報資材としては，年次活動報告「NHK Annual Report 2015-2016」とPRビデオ「NHK 2015」の英語，中国語，韓国語の３か国語版を制作した。

◇15年度の主な報道発表（日本語・英語）

・最新の８Kコンテンツ，開発機器をNAB2015に出展（4.3）（英語のみ）
・NHKワールドTV　米でプロモーション（4.22）
・世界公共放送番組会議～INPUT2015東京大会開催案内（5.1）
・国際放送開始から80年（5.14）
・NHK教育番組，ベトナム国営テレビで放送へ（5.14）
・「第69回技研公開」の開催について（5.19）（英語のみ）
・８Kスーパーハイビジョン パブリックビューイングFIFA女子ワールドカップ2015 カナダ大会（5.22）（英語のみ）
・NHKワールドTV　VODサービス開始（6.4）
・NHKワールドTV『アジアハイウェイ2015』を放送（6.22）
・NHKワールドTV　戦後70年をテーマに世界に発信（7.22）
・『連続テレビ小説』「あまちゃん」フィリピンで10月から放送開始（8.17）

・「ABUロボコン2015」インドネシア・ジョグジャカルタ　ベトナム代表が２年連続で優勝（8.23）
・NHKワールドTV　９月に東北の番組を集中編成（8.31）
・世界初！　HDR対応85V型８K液晶ディスプレーを開発～IBC2015で展示～（9.3）（英語のみ）
・NHKワールドTV　地方からの発信を強化（9.16）
・アフリカの放送局と初の国際共同制作（10.1）
・「８K試験放送開始直前！　最高の映像美を展示」“CEATEC JAPAN 2015”に出展（10.1）（英語のみ）
・NHKワールドTV　11月に北海道の番組を集中編成（10.21）
・第42回「日本賞」グランプリ決定（10.22）
・ABU賞にNHKの２番組（10.31）
・「国連COP21」に関するキャンペーンに参加（11.5）
・『連続テレビ小説』の海外展開強化について（12.3）
・８Kスーパーハイビジョン パブリックビューイング『第66回NHK紅白歌合戦』（12.3）（英語のみ）
・NHKワールドTV　アジアや日本の今を描くドキュメンタリーを９回シリーズで放送（12.16）
・第45回番組技術展～放送現場のアイデアから生まれる技術を紹介～（1.7）（英語のみ）
・NHKワールドTV　28年度番組改定発表（1.20）
・NHKワールドTV　「東日本大震災から５年」関連番組（2.17）
・NHKワールドTV　『J-Trip Plan』第１回　瀬戸内海の魅力を世界に発信（3.23）

３．技術広報

NHKは豊かな放送文化の創造に向け，新たな放送技術の研究や開発，実用化，普及において先導的な役割を果たしている。NHK技術の取り組みについて，積極的に情報発信した。

総務省が示した４K・８K推進のためのロードマップを踏まえ，NHKは16年８月に試験放送を開始することとし，必要な設備整備を進めている。８Kスーパーハイビジョンをはじめとした新たなサービスの研究・開発の動向などを中心に積極的なPRを展開した。

（１）８KスーパーハイビジョンPR

会長定例記者会見や広報番組などで，随時８Kスーパーハイビジョンに関する取り組みを紹介したほか，マスコミを対象とした最新設備の説明会を開催するなど認知の向上に努めた。

（２）放送技術の研究・開発の広報

NHKが担っている放送技術の研究・開発における先導的な役割について，機会を捉えて国内外に広くPRした。特に高ダイナミックレンジ（HDR）など，より精細な映像を実現する，８Kに関する研究や，3Dなど近未来のテレビの姿，さらに世界初となる８K中継車の開発などの放送技術の最新動向を重点的にアピールした。

最新の研究成果を広く一般に公開する「技研公開」と，全国の放送現場のアイデアから生まれた技術を紹介する「番組技術展」については，会長定例記者会見で見どころを紹介し，プレスプレビューを実施した。

（３）イベントを通じた技術広報

「FIFA女子ワールドカップ2015 カナダ大会」，『NHK紅白歌合戦』，『NHK杯フィギュア「スペシャルエキシビジョン」』など，全国各地で実施した８Kのパブリックビューイングや「ミラノ万博ジャパンサローネ」，「NAB2015」，「IBC2015」，「CEATEC JAPAN2015」などの国内外のイベントでの８Kの機器やコンテンツの展示について広報し，来場者の拡大を図った。８Kの持つ高い臨場感を体感してもらうことで，NHKの最新技術に対する理解増進を図った。

（４）印刷物やホームページでの広報

番組制作，報道，番組送出，送信・受信技術，研究開発などにおけるNHKの技術の取り組みを紹介する「NHKの放送技術2016」を発行した。この中では，16年に開始する８Kスーパーハイビジョンの最新研究開発･整備の特集ページを更新，充実した。

ホームページ「NHKデジタル」も一部改訂し，新サービスやデジタルテレビのネット接続などの周知を行った。

（５）主な報道発表

・最新の８Kコンテンツ，開発機器をNAB2015に出展（4.2）
・８Kスーパーハイビジョン パブリックビューイングFIFA女子ワールドカップ2015 カナダ大会（5.14）
・８Kスーパーハイビジョン 衛星放送実験 世界初公開（5.14）
・「第69回技研公開」の開催について“究極のテレビへ、カウントダウン！”　26の研究成果展示（5.14）
・８Kスーパーハイビジョン衛星放送実験信号のケーブルテレビ伝送に成功（5.26）

・広色域レーザーバックライト直視型液晶ディスプレーを開発（5.26）
・フルスペック８Kスーパーハイビジョン対応プロジェクターを開発（5.26）
・“MPEG-DASH 視聴プレーヤー”を開発～動画配信サービスの新たな展開に向けて～(5.26)
・インテグラル立体テレビの画質を向上～ディスプレーをタイリングする新技術を開発～(5.26)
・双方向機能を持つFPUを開発～伝送時間を従来の半分以下に～（5.26）
・バーチャルスタジオ用リアルタイム照明推定装置を開発～実写とCGの自然な映像合成を目指して～（5.26）
・全天周映像による実写ベースバーチャルスタジオを開発（5.26）
・世界最小８Kスーパーハイビジョン用9.6インチ液晶パネルを開発（5.26）
・世界初！　HDR対応85V型８K液晶ディスプレーを開発～IBC2015で展示～（9.3）
・「８K試験放送開始直前！　最高の映像美を展示」“CEATEC JAPAN 2015”に出展（10.1）
・８Kスーパーハイビジョン パブリックビューイング『第66回NHK紅白歌合戦』(12.3)
・第45回番組技術展～放送現場のアイデアから生まれる技術を紹介～（1.7）

Ⅱ．番組広報

１．放送総局長会見と番組取材会

原則月１回，放送総局長の定例記者会見を開いてNHKの番組を広報した。番組の解説やPR映像の上映などを交え，見どころや魅力を紹介した。番組改定や夏の特集，年末年始特集については冊子を発行し，総局長会見などで詳細を紹介した。併せて，テレビ情報誌などにも同様の内容を丁寧に説明した。

『大河ドラマ』『連続テレビ小説』などのドラマ番組，『NHKスペシャル』といった大型特集番組などでは，番組の完成に合わせて出演者やプロデューサーが出席する試写会を積極的に実施した。『NHK紅白歌合戦』をはじめとするエンターテインメント番組や子ども向け番組を含む各波の注目番組では，出演者決定などのタイミングで記者会見を開いたほか，合同取材や個別取材にも数多く対応した。

『大河ドラマ』「花燃ゆ」では，特に年間を通して多数の取材会を行った。中でも，７月と９月に迎えた物語の大きな節目には，番組情報を集中的に発信し，大きな反響を得た。

『連続テレビ小説』の平均世帯視聴率は，前期の「まれ」が19.4%，後期の「あさが来た」が23.5%（ビデオリサーチ　関東地区）と，多くの支持を得た。好調を持続すべく，東京，大阪の広報が一体となってPRを展開した。また，地域放送局制作ドラマの広報では各局と連携し，PRの全国展開を支援した。

『第66回NHK紅白歌合戦』では，記者会見を開いて「司会者」「出場歌手」とテーマの「ザッツ、日本！ザッツ、紅白！」について発表したほか，節目ごとに「紅白宣伝部」「曲目」「曲順」「審査員」などについて報道発表を行い，多彩な広報展開を図った。多くの媒体に取り上げられ，放送後に至るまで大きな話題となった。

「ラグビーワールドカップ2015」では，大会期間中，放送情報や反響などを配信し，大会の盛り上げに貢献した。

◇放送総局長定例記者会見の主な内容

４月　『NHKスペシャル』「明治神宮　不思議の森」，スペインドラマ『情熱のシーラ』
５月　『NHKスペシャル』「沖縄戦　全記録」
ウィンブルドン2015関連番組
『ハートネットTV　シリーズ　戦後70年』
６月　夏の特集番組
『NHKスペシャル』戦争と平和を考える番組
７月　防災関連番組
『第47回　思い出のメロディー』企画・出演者決定
９月　平成27年度後期番組改定
『NHKスペシャル』「新・映像の世紀」
『NHKスペシャル』「アジア巨大遺跡」
10月　認知症キャンペーン関連番組
『新天地に挑んだ日本人～日本・ブラジル120年～』
11月　年末年始特集番組
『とことん知りたい！ノーベル賞』
介護関連特集番組
12月　『NHKスペシャル』「シリーズ　激動の世界」
阪神・淡路大震災関連番組
東日本大震災５年に向けて
１月　28年度番組改定
『NHKスペシャル』東日本大震災関連番組
２月　東日本大震災から５年 関連番組
『放送90年大河ファンタジー　精霊の守り人』

３月　『NHKスペシャル』大アマゾン最後の秘境
『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』「渡辺謙×山中伸弥」
NHKリオ五輪テーマソング完成

Ⅲ．広報制作

視聴者に放送予定や放送番組の魅力，公共放送ならではのさまざまな取り組みを伝える，スポット，クラッチ，番組を制作・放送した。（表８・９）

また，ポスター，デジタルサイネージ，交通広告，新聞広告に加え，ホームページ，ツイッターといったデジタルコンテンツによる，多様な視聴者層獲得への取り組みを行った。また，スタジオパークの運営やさまざまなイベントへの参加を通して，番組や公共放送のPRに努めた。

１．広報番組

（１）番組広報

「番組スポット」（地上波２波・週およそ３時間25分，衛星２波・週およそ４時間17分30秒）を中心に，地上・衛星波で，毎日，番組PRを放送した。『土曜スタジオパーク』（生放送）は，毎回２つの番組からゲストを迎え，出演番組の見どころや舞台裏など，魅力をたっぷりと伝えた。また，NHKの最新情報やイベントを毎週発信した。

15年度は４回（石川県輪島市・山口県下関市・大阪府大阪市・群馬県沼田市）公開生放送を行い，地域サービスにも努めた。そのほかスタジオパークにさまざまなゲストを招く『スタジオパークからこんにちは』，BSの番組を中心にPRする『BSコンシェルジュ』を含め，多角的に広報番組を放送した。さらに，最新の番組制作情報，経営情報や番組の舞台裏などを紹介する『プレマップ』も随時放送した。

（２）経営広報

日曜の午前にNHKの経営情報や番組情報を伝える『NHKとっておきサンデー』は，朝の『連続テレビ小説』の20分ダイジェスト，NHKの番組情報，地域の放送局の取り組みとともに最新の経営情報を紹介している。15年度は８回の放送に会長や理事が出演し，経営目標などを直接視聴者に語りかけた。なかでも，相次ぐ不祥事に対し，２月には会長が視聴者におわびをするとともに再発防止策の説明を行った。また，『クローズアップ現代』の報道をめぐってBPOが行った決定についても伝えた。

そのほか，公共放送NHKの役割を広く知っていただくため，NHK各部局や地域放送局の取り組みを紹介した番組『ここに、公共放送』を制作・放送した。また，16年度のNHK予算と事業計画についての衆議院・参議院の総務委員会の審議のもようをノーカットですべて放送した。

（３）そのほかの番組

６月に開催されたFIFA女子ワールドカップサッカー2015では，日本代表選手出演のスポット，クラッチを集中放送，日本代表の試合をPRした。BSではMLBやラグビーワールドカップなどの告知も行い，スポーツが柱の一つであるBS1のステーションイメージを高めた。また，12月には毎年恒例の『グランプリ決定！「ミニミニ映像大賞グランプリ」』を放送。さらに，NHK歳末・海外たすけあいへの協力を呼びかける『あなたのやさしさを2015』を放送した。また，14年度開始の「認知症キャンペーン」では，放送やウェブなど部局を越えたさまざまな取り組みを通じて，視聴者と一緒に認知症について考えるキャンペーンを行った。事務局を担当した広報制作部では，キャンペーンや番組を紹介するプレマップ，スポット，クラッチなどを制作して，キャンペーンへの参加を広く呼びかけた。

２．広報印刷物や広告などによる取り組み

（１）経営広報関連

①「平成27年度ことしの仕事」（本編２万部・資料編１万部）を作成。番組編成方針のほか各部局の事業計画を紹介し，全国各局の広報活動で使用した。

②小学５年生の社会科で学ぶ「放送局の仕事」の副読本として，放送の仕組みと公共放送の役割を解説した冊子「NHKジュニアブック」（48万部）と「ニュース番組ができるまで」（DVD：5,200枚）を作成。全国の放送局を通じ，希望する小学校に配付した。また，聴覚障害者向けに字幕版DVDを合わせて作成し，全国のろう学校等に配付した。さらに「小学生新聞」や小学校向け冊子などでEテレのおすすめ番組を紹介する企画広告も掲載した。

（２）番組広報関連

①『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』のポスター，リーフレット，メイキングDVD等を作成・配付し，全国の視聴者イベントや営業活動現場で活用した。「真田丸」「あさが来た」では，相互協力で上田電鉄やJR大阪環状線などご当地を走るラッピングトレインを実施した。

②広報イベント・展示

表８　広報番組一覧（2015年度）

	番組名	放送時間	内　容	備考
地上	NHKとっておきサンデー〔継続〕	総合　（日） 前11:00～11:54 （生放送）	12年度から54分の生放送広報番組としてリニューアルスタートした『NHKとっておきサンデー』。NHKの「見たい」番組＆「知りたい」情報を日曜日の午前中，総合テレビの生放送で伝え，『連続テレビ小説』の1週間ダイジェスト，NHKの経営情報や地域放送局の取り組み，最新の番組情報を紹介するなど，視聴者への「窓」としての役割を担った。キャスターは奥芝由三栄アナ。週替わりで，篠山輝信，豊田エリー，中島歩，池澤あやかが担当した。	番組情報のコーナー「とっておきチェック」はNSCに委託。そのほかは，本体制作。 （40本）
	土曜スタジオパーク〔継続〕	総合　（土） 後 1:50～ 2:50 （生放送）	毎回，２つの番組を取り上げ，ゲストとともに見どころや舞台裏など，魅力をたっぷりと伝える。また，NHKの最新トピックスやゲストと視聴者の交流・特集企画など，盛りだくさんの内容で届けた。	本体制作 （36本）
	スタジオパークからこんにちは〔継続〕	総合　（月～金） 後 1:05～ 1:50 （生放送）	ＮＨＫの番組に出演するゲストをスタジオに招き，番組ＰＲとあわせて出演者の素顔に迫るトーク番組。データ放送を使ってのクイズも盛り込み，視聴者も参加して楽しめる生トークバラエティーとして，幅広い番組と出演者を取り上げた。司会は伊藤雄彦アナとコンビを組んで，竹下景子，高畑淳子，戸田恵子，清水ミチコの４人が日替わりで担当。	NEPに委託 （160本）
	BSコンシェルジュ〔継続〕	総合　（金） 後 0:20～ 0:43ほか	ＢＳ番組の魅力を毎週視聴者に伝える。毎回１つの番組からゲストを招き，その内容や見どころをゲストの楽しいトークとともに伝えた。地域ドラマの舞台となった地に出向いての公開収録も行った。	NSCに委託 （50本）
	もうすぐ９時　プレマップ〔継続〕	総合　（月～木） 後 8:43～ 8:45	夜８時台の高視聴率時間帯に，その日（または翌日）放送の番組の見どころを紹介する広報番組。毎回２つの番組を橋本奈穂子アナが明るくさわやかにプレゼンテーション。総合波の番組を中心にＰＲし，接触者率の向上を促進した。	NSCに委託 （167本）
	テレビ　大好き〔継続〕	総合　（日） 前 6:50～ 6:52	日曜日の朝，総合テレビを中心にお薦め番組の見どころをＰＲするとともに，４Ｋ・８Ｋ，ハイブリッドキャスト，ＮＨＫオンデマンド，ＮＨＫの番組やキャンペーンを紹介するウェブサイトなどを紹介する番組。ＣＧデジタルキャラクターと牛田茉友アナとの楽しいやりとりで，ＮＨＫの番組の魅力とデジタル情報について分かりやすく伝えた。	NSCに委託 （36本）
	週末プレマップ〔継続〕	総合　（土） 後 0:39～ 0:42 後 6:42～ 6:45	週末番組の見どころを伝える広報番組。土曜の昼と夕方，橋本奈穂子アナが楽しくガイド。視聴者の理解を深め，接触者率の向上を促進した。	NSCに委託 （50本）
	地上波スポット〔継続〕	総合・Eテレ 随時（30秒・１分）	番組やイベントを幅広くＰＲするとともに，経営広報ではNHKのさまざまな取り組みを伝えて公共放送への理解を促進した。	本体制作
	経営広報スポット〔継続〕	地上・BS2波 随時（５秒・30秒・１分ほか）	受信料のお知らせや，NHKが取り組んでいる「認知症」など重要なキャンペーンを広報展開し，視聴者のNHKに対する理解を促進した。公共放送の意義をPRする「ここに、公共放送」を制作した。	NSCに委託
	中央放送番組審議会〔継続〕	総合　原則開催当月 最終日曜 前 6:50～ 6:52	各月の審議の概要を伝えた。 （特集編成等で変更する場合あり）	本体制作
	地方放送番組審議会〔継続〕	総合　原則開催翌月 第２土曜 前11:20～11:22	各月の審議の概要を伝えた。 （特集編成等で変更する場合あり）	本体制作
	国際放送番組審議会〔継続〕	総合　原則開催当月 最終日曜 前 5:45～ 5:47	各月の審議の概要を伝えた。 （特集編成等で変更する場合あり）	本体制作
衛星	BSスポット〔継続〕	BS2波・地上 随時（15秒・30秒・１分）	BS2波の特性を生かした番組の魅力を，コンパクトに広報。戦略的な編成で，番組への関心を呼びおこした。	NSCに委託

	番組名	放送時間	内　容	備考
その他	BS普及推進スポット〔継続〕	BS2波・地上 随時（30秒・１分ほか）	世界女子カーリング選手権・ラグビーワールドカップ・女子ワールドカップサッカーなどBS普及の節目にスポット・ミニ番組などを広報展開。	NSCに委託
	政見経歴放送〔継続〕	総合・ラジオ第１ 随時	各知事選の政見経歴放送を実施したほか，16年の参院選に備えてハンドブックの改訂などを行った。	本体制作

『大河ドラマ』，『連続テレビ小説』などの番組PRを中心に，全国のイベント会場，会館公開などでブース出展や展示イベントを行った。また，15年度から「国際放送NHK WORLD」の国内向けPRにも取り組み，全国80か所以上で展開した。展開に際しては，編成局，制作局，メディア企画室などとも連携して，各番組PRだけでなく，ハイブリッドキャストや８Kスーパーハイビジョンなどの経営広報に関する課題も盛り込んだ。

③『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の舞台地局支援

「早期の番組PRによって地元のNHKの存在感を高めたい」というニーズに応えてさまざまな広報施策に取り組み，長野局，和歌山局，前橋局，静岡局などと連携しながら広報活動に取り組んだ。

（３）新たな広報活動への取り組み

①14年冬に続き，若者層へのアプローチとして，東京ビッグサイトで開催された「コミックマーケット」に関係部局・団体などと連携してNHKブースを出展。NEPが物販ブースも隣設した。NHKの出展はさまざまなメディアで取り上げられ，パブリシティ効果もあり，NHKへの接触率の低い若年層にも好感を得られた。（会期：12.28～31 来場者数：52万人）

そのほか，前回に続き雑誌『宣伝会議』を通じて若手クリエイターから「NHKへの親しみを感じていただく広告案」の募集なども実施した。

②14年度後期に渋谷駅ハチ公前の常設PRスペースとして確保した「青ガエル」では，引き続き若年層に特化したアプローチを念頭に，『LIFE！～人生に捧げるコント～』や『アニメ　境界のRINNE』『びじゅチューン！』『サンダーバードARE GO』などの動画コンテンツ展示を実施。また，「青ガエル」が渋谷区の外国人向け観光案内所であることから，国際放送局との連携で「NHK WORLD」のPRコンテンツを追加して認知度向上に努めた。

「渋谷駅からスタジオパークへの誘客施策」では，「企画展の共同開催」「両施設についてのインセンティブ付きアンケート」「スタジオパーク50年PRとの連動」など取り組みを強化した。

（４）大型スポーツイベントの広報展開

６月～７月に開催されたFIFA女子ワールドカップ2015カナダ大会の生中継（BS1）のPRを関係部局と連携して実施。渋谷・原宿の大型街頭広告を活用して視聴促進を図るとともに，ビジュアル内に勧奨メッセージを盛り込みBS契約の自主申し出を強く呼びかけた。

（５）番組改定のプロモーション展開ほか

16年度番組改定プロモーションを各部局と連携して実施，総合テレビの平日夜間を中心に重点番組を絞り込み，N（なご見）H（フカ見）K（かえり見）の頭文字に合わせて時間帯別の番組編成を共通デザインでPR。統一感と訴求力を高めた。スポットや特設ウェブサイト，交通広告，サイネージ広告，ウェブ広告などの展開で改定の情報を視聴者により分かりやすく訴求した。

15年度番組改定の「放送番組時刻表」を各拠点局別に作成。併せて視覚障害者向けに「点字番組時刻表」「音声CD版 番組時刻表」も作成し全国の盲学校・点字図書館など社会福祉施設に配付した。また，音声版時刻表はNHKオンラインからダウンロードできるサービスも実施した。点字時刻表の希望者への発送は，全国分を一括広報局で行う事で各局負担の軽減を図った。

３．インターネットによる広報

①経営情報ホームページでは，毎月の会長会見や総局長会見要旨のほか，経営企画局や経理局・営業局などからの各種掲載依頼に対してスピーディーな情報更新に努めた。

②年間を通じて開設している『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の公式ホームページではファンを引き付ける企画の充実とともに，LINEやInstagramなどSNSとも連携して展開した。

③広報局が管理・運営していた番組情報サイト「注目番組ナビ」「コレ見て！MOVIE」「テレマップMOVIE」「Wonder web for women」を統合し，11月11日より「NHK_PR」を立ち上げた。コンセプトは，フォロワーが100万人に上るツイッターアカウント「@NHK_PR」のホームページ版。広報局ツイッターは，親しみやすい文面で人気を得ているため，広報サイト「NHK_PR」も個

性豊かな書き手が記事を執筆している。４サイトがこれまで担っていた，番組告知，リリースや会見動画の告知，予告動画の掲載，女性向け記事の掲載といった内容は踏襲した上で，新たな記事企画として番組制作者や出演者に取材した読み物を毎日更新している。サイトデザインは，画像がまず目に入る作りで，各記事には必ずキャッチコピーを付けており，外部メディアが引用しやすい形を取っている。記事は外部キュレーションメディア「antenna」へもフィード提供し，広報記事の拡散につとめている。

④広報局では，ツイッター「@NHK_PR」と，NHK公式フェイスブックを運営している。フェイスブックのファン数は，約40万人。

⑤15～16年度の「フレッシャーズ・キャンペーン」では，２月から５月にかけての引っ越し時期に一人暮らしを始める新入学生や新社会人をターゲットとして受信契約促進を実施。女優の葵わかなさんをキャラクターに起用した。スポットと特設ウェブサイト，ポスター，営業対策資材としてリーフレット，クリアフォルダーを作成したほか，広告媒体を活用したキャンペーンを展開。受信料家族割引契約を訴求するなど営業活動を後押しした。

表９　特集番組一覧（2015年度）

放送日	メディア	タイトル
４月	Gほか	「ここに、公共放送　～いのちと暮らしを守る安心ラジオ～」
４月	BS1ほか	BS1メジャーリーグベースボール2015 PRスポット
５月	Gほか	「ここに、公共放送　～ハート展20年～」
５～６月	BS1ほか	FIFA女子ワールドカップ2015 PRスポット
５月３日	G	“渋谷DEどーも2015”を楽しもう！
６月	Gほか	受信寮の人々（第１話・２話）
６月	Gほか	「ここに、公共放送　～のど自慢70年～」
６～７月	Gほか	ウィンブルドンテニス PRプレマップ
７月	Gほか	認知症キャンペーン特番 PRスポット
７月	Gほか	「ここに、公共放送　～高校野球100年～」
８月	Gほか	明治編突入直前！『大河ドラマ』「花燃ゆ」PRスポット
８月	Gほか	幕末関連番組・『大河ドラマ』「花燃ゆ」など PRスポット
８月	Gほか	「ここに、公共放送　～パラリンピック放送～」
８月	Gほか	受信寮の人々（第３話・４話）
９月	BS1ほか	ラグビーワールドカップ2015 PRスポット
９月	Gほか	「ここに、公共放送　～“ぼうさいマップ”を作ろう～」
10月	Gほか	「ここに、公共放送　～“地域発ドラマ”全国で制作中～」
10月	Gほか	日本賞50年 PRスポット
11月	Gほか	「ここに、公共放送　～認知症キャンペーン～」
11月	Gほか	受信寮の人々（第５話）
11月	Gほか	認知症キャンペーン関連番組集中編成 PRスポット
11月	Gほか	ネット同時配信実験・NHK杯フィギュア PRスポット
11月	G	NHKオンデマンド PRスポット
11月	Gほか	スクープBOX・おはよう日本版 PRスポット
11月	G	総合夜10時台の番組 PRスポット
11月７日	G	ミニミニ映像大賞・予選会
11～12月	Gほか	NHK歳末・海外たすけあい PRスポット
12月１日	G・R1	きょうからNHK歳末・海外たすけあい
12月	Gほか	「ここに、公共放送　～NHK子ども音楽クラブ～」
12月５日	G	あなたのやさしさを2015～NHK歳末・海外たすけあい～
12月６日	G	ミニミニ映像大賞 グランプリ決定
12月	G	ネット同時配信実験・天皇杯全日本サッカー PRスポット
12月	Gほか	年末年始特集番組 PRスポット
12月	Gほか	１月スタートドラマ PRスポット
12月25日	G・R1	NHK歳末・海外たすけあいを終えて
12月27日	G	NHKとっておきサンデー　増刊号～2015　年末スペシャル～
12月31日	G	スタジオパーク大みそかスペシャル
１月	Gほか	「ここに、公共放送　～放送博物館リニューアルオープン～」
１月	Gほか	受信寮の人々（第６話・７話）
１月	G	ネット同時配信実験・日本ラグビーフットボール選手権
２月	Gほか	「ここに、公共放送　～VFXで描くドラマの世界観～」
２月	Gほか	スクープBOX・ニュース７版 PRスポット
２月	G	BS1ウインタースポーツウィーク PRスポット
２月	G	サッカー女子・リオ五輪アジア最終予選 PRスポット
２月	Gほか	春の新生活応援スポット
３月	Gほか	東日本大震災プロジェクト「明日へつなげよう」PRスポット
３月	BS1ほか	世界女子カーリング選手権2016 PRスポット
３月	Gほか	NHKスーパーハイビジョン PRスポット
３月	Gほか	受信料関連・住所変更はネットで簡単 PRスポット
３月	Gほか	春の番組改定プロモーション スポット
３月18･23日	G・R1	NHK平成28年度予算審議～衆議院総務委員会
４月１日	G・R1	NHK平成28年度予算審議～参議院総務委員会

営　業

営業の組織

（１）営業拠点

受信契約の徹底と受信料の確実な収納を図るため，各地域放送局内の営業部のほかに，大都市圏地域を中心に18の営業センターを置いている。全国合わせて67の営業部と営業センターを営業活動の拠点としている。各営業拠点では，地域別や業務内容別（地域スタッフ対応，事業所対応，お客様対応など）に業務実施グループを編成し，営業活動を実施している。

（２）営業活動単位

①営業職員

地域スタッフの指導や支援活動，ケーブルテレビ・事業所などとの渉外業務や，視聴者からの問い合わせ対応，地域状況の分析を行う。また，受信契約の契約・収納業務を行う。

②地域スタッフ

委託契約に基づき，受信料の契約・収納業務を行う。

③法人委託

委託契約に基づき，受信料の契約・収納業務を行う。電器店や不動産会社等，契約業務のみを行う場合もある。

Ⅰ．受信契約

１．受信契約者の維持・増加活動

大都市圏を中心として，単身世帯等の面接困難世帯の増加や経済状況の低迷等の影響により，営業活動を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

こうした中で，法人事業者への契約・収納業務委託を段階的に拡大するなど効率的な営業体制の構築を図るとともに，未契約・未収者への早期対応に向け，携帯端末に登録した情報に基づく活動をはじめ，土日祝の面接好適日や夜間などの好適時間帯による対策にも積極的に取り組んだ。

さらに，衛星放送の普及促進に不可欠なケーブルテレビ事業者や電器店などと連携した活動や，マンション入居者対策として不動産事業者との業務委託による契約取次活動を展開した。

そのほか，BSデジタル機器に同梱される「ファーストステップガイド」への衛星契約書の封入や，CASメッセージ機能やダイレクトメールを活用した契約勧奨，「受信料の窓口」（インターネット営業センター）や「NHKフリーダイヤル」による受信契約・住所変更の受け付けを行った。

15年度の契約総数（有料無料計）は，年間で58万件増加し，年度末における契約総数は4,258万件（有料無料計）となった。

２．事業所などの受信契約

家庭に設置されたテレビなど受信機の受信契約は，受信機の台数にかかわらず１世帯１契約としているが，会社・官公庁・ホテル・旅館・病院などいわゆる事業所の場合は，テレビの設置場所ごとに受信契約が必要となっている（放送受信規約第２条）。

15年度は，14年度に引き続き，同一敷地内全数契約を条件とした事業所割引や業界団体への業務委託を活用するなど，公平負担の徹底に向けたきめ細かい活動を全国的に展開した。

その結果，年間で14万件の受信契約件数の増加となり，年度末の事業所契約件数は306万件となった。

３．営業システム

受信料の請求，収納など営業活動の支援は，営業システム「EGGS」を活用して行っている。より効率的・効果的な訪問活動を目指し，最新技術を導入した新しい携帯端末システムを開発し，15年10月より全国運用を開始した。

ショッピングや各種手続きなどのインターネット利用者数の継続的な増加や，スマートフォンの急速な普及などの社会状況に合わせ，インターネットによる受信料関係届け出窓口のユーザビリティー改善に努めた。また，支払率向上へ向けて，インターネット口座振替利用金融機関の拡大と，認知度向上に取り組んだ。

システム被災時に備え，業務継続に向けたバックアップ機能の整備を進めた。セキュリティ対策では，ネットワーク環境再構築も含めたセキュリティ強化対策を継続して実施した。また，より効率的な営業体制の構築に向けて，営業拠点集約に確実に対応した。

Ⅱ．受信料の収納

１．口座振替など間接収納の促進

受信料の収納は，口座振替・クレジットカード

継続払・継続振込によって行っている。

近年，単身世帯や共働き世帯の増加，オートロックマンションの普及などにより面接困難世帯の割合が高くなり，営業活動の困難度も増している。

こうした中で，収納の安定化や効率的業務推進のため，これまで口座振替の拡大を進めてきたが，06年６月からは「クレジットカード継続払」の支払いを開始し，15年度末の利用件数は510万件となった。

振込用紙発送時や新規の受信契約を取り次ぐときに，口座振替・クレジットカード継続払の利用勧奨を積極的に行っているほか，ダイレクトメールによる勧奨も実施している。

15年度末の口座振替・クレジットカード継続払による受信料支払い件数は3,173万件で，これらの利用割合は79.7％となった。

２．受信料の収納体制

①口座振替は，都市銀行，地方銀行，第二地方銀行，信用金庫，信用組合，労働金庫，農協，漁協，ゆうちょ銀行，ネット銀行の一部が利用可能となっている。
②クレジットカード継続払は，15年度末時点で20ブランドのカードが利用可能となっている。
③継続振込の取り扱い窓口は，都市銀行，地方銀行，第二地方銀行，信用金庫，農協，コンビニエンスストア，ゆうちょ銀行または郵便局である。

このほか，ケーブルテレビ事業者による受信料「団体一括支払」制度により，収納の効率的な推進に努めた。

３．メッセージ機能の活用

BSデジタル放送の設置確認を効果的に行い，受信料の公平負担を徹底するため，BSデジタル放送のテレビ画面に，BS受信機の設置についてNHKへの連絡を促す設置確認メッセージを表示している。

BSデジタル放送の視聴開始30日後から，NHKのBSデジタル放送にチャンネルを合わせるたびに，テレビ画面の左下隅に設置確認メッセージが表示される。

画面に表示されたいずれかの方法で，B-CAS（ビーキャス）カード番号，名前や住所などをNHKに連絡すると，設置確認メッセージ表示の消去を受け付ける。NHKでは，この情報を基に，契約状況を確認し，衛星契約が済んでいない方には，契約の依頼を行っている。さらに，受信機設置の連絡後，一定期間を経てもなお衛星契約の届けがない場合に契約案内メッセージを表示する運用を10年12月から開始している。

【受信機設置のご連絡のお願い】
NHKでは，衛星契約済みの方も含め，衛星放送受信機ごとに，設置のご連絡をお願いしております。メッセージの消去方法は，リモコンの青ボタンを５秒以上押すと表示されます。
電話の場合は0120-933-933

また，BSデジタル受信機にこん包されている「BS デジタル機器設置連絡票」を，受信機購入後速やかに投かんすれば，あらかじめ設置確認メッセージが表示されないようにすることもできる。

※B-CASカード
BSデジタル受信機には，ICチップのついたB-CASカードが必ず添付されている。

著作権を保護するコピー制御の仕組みがあるため，デジタル放送を視聴するためには，このカードを受信機の所定の場所に差し込む必要がある。このカードの機能により，メッセージの表示のほかに，WOWOWなどのスクランブル放送や，高度な双方向サービスといったBSデジタル放送の魅力的なサービスを，十分に楽しむことができるようになっている。

Ⅲ．視聴者との回路作り

１．視聴者との結び付き強化

（１）受信料の支払率向上に向けた視聴者対応

公開番組や各種イベントなど，家族連れや若者が多い場に出向き，受信料制度や公共放送の役割などを伝える理解促進活動を積極的に展開した。

①理解促進ツールの拡充

公共放送・受信料制度に対する理解促進については，リーフレット以外にもインターネットホームページを積極的に活用し，支持層の拡大を図った。また，公開番組の収録時において，開演前のあいさつを兼ねた受信料制度の説明や理解促進活動を行った。

②地域スタッフへの情報提供と研修

地域スタッフが視聴者を訪問する際に，ニーズに応じた番組の案内ができるように，毎週の番組情報を定期的に提供するとともに，新番組の上映会や番組制作担当者による番組説明会を開催した。さらに，視聴者との対応スキル向上，視聴者の立場に立った営業活動の在り方，番組情報などを内

容とする研修ビデオを制作した。

（２）放送番組などを活用した視聴者対応

全国各地の放送局において，放送番組やイベントを通じて視聴者と積極的な交流を図り，公共放送の理解促進に努めた。

①公開番組・イベントと連動した営業活動

各地の視聴者との交流を図るため，公開番組や各種イベントと連動した営業活動を実施する「エリアターゲット」を全国で展開したほか，地域向け放送などを通じ，地域放送局が主体となって幅広い理解促進活動を実施した。

②デジタル放送の普及促進活動の展開

地上・BSデジタル放送に関する情報を番組やホームページで周知するほか，「NHK・番組体感ランド」などのイベントを通じて地上・BSデジタル放送の一体的な普及促進を図った。

２．視聴者の意向吸収と業務への反映

（１）視聴者意向の吸収

職員や地域スタッフ，委託法人などによる訪問活動や電話対応など日常の営業活動の中で，視聴者意向の吸収に努めた。

（２）視聴者意向の業務への反映

番組に対する視聴者の反響や意見については，番組改定時における番組制作や編成業務の参考資料として活用している。

３．NHKふれあいセンター（受信料関係）

東京・大阪・福岡・仙台の４つのふれあいセンター（営業）で，視聴者からの電話による「放送受信契約の申し出」「受信料関係の問い合わせ」の受付業務を実施した。毎年多くの転居連絡を受ける４月の引っ越しシーズンには手厚い対応体制を整えた。一方で，口座振替の利用勧奨や継続振込等の入金依頼など，受信契約者へのアウトバウンド業務も積極的に展開した。

また，東京のふれあいセンター（営業）では，インターネットによる受信契約や住所変更，受信料の支払方法変更などの申し出に対応する「インターネット営業センター」業務を行ったほか，BSデジタル放送の「メッセージ消去」については，メッセージ消去の受け付けと同時に衛星契約の届け出を受理する取り組みの充実を図った。